

富山県中小企業金融実態調査

令和3年8月

富山県商工会連合会

令和3年度中小企業金融実態調査結果概要

令和3年8月16日
富山県商工会連合会

I. 調査目的

県下商工会地区における中小企業・小規模企業等の経営概況や金融に関する動向等を把握し、中小企業金融の円滑化に資するための基礎資料を得ることを目的として調査を実施した。

II. 調査対象及び方法

商工会地区の中小企業・小規模企業のうち、1,040先を無作為に抽出し、商工会の経営指導員の面接により調査を行った。

III. 調査時期及び実施期間

調査書記入時点	令和3年7月1日
調査実施期間	令和3年7月1日～7月9日

IV. 回答状況

調査対象企業数	1,040先
回答企業数	1,032先（回収率99.2%）

V. 調査結果の概要

ここ1年間の売上高では、売上増加企業が2.6ポイント増加し31.1%、売上減少企業は3.4ポイント減少し67.7%となり、引き続き厳しい結果になった。採算面では、黒字企業が4.8ポイント増加し27.7%、赤字企業は4.3ポイント減少し33.7%だった。今後の売上予想では、「増加する」が24.0ポイント増加し38.5%、一方で「減少する」は24.0ポイント減少し59.8%になったものの、依然として「増加する」を上回っている。「新型コロナウイルス」の経営への影響は、「深刻な影響がある」が27.1ポイント減少し33.1%、「少し影響がある」は17.8ポイント増加し44.8%、「ほとんど影響なし」と「良い影響がある」の合計は7.8ポイント増加し19.6%となり、着実に「コロナ禍」を克服しつつある。「深刻な影響がある」を業種別に見ると、「飲食業・宿泊業」が78.0%と最も高く、「卸売業」50.0%、「小売業」41.6%と続く。最少は「建設業」の11.2%で、業種によるバラツキが極めて大きい。経営課題は「販売の強化」「人材の確保・育成」「経費削減」が3大課題である。

金融機関からの借入状況は、昨年12月末との比較で「増えた」が11.5ポイント減少し30.0%、「減った」は4.1ポイント増加し37.3%になった。「借入なし」は24.6%と全体の4分の1を占め、規模が小さくなるほど「借入なし」の割合は高くなる。金利は低下傾向が続いているが、今年に入ってからはやや下げ止まっている。今後

1年間の借入計画では、「あり」が6.9ポイント減少し15.6%だった。

国・県・市町村の制度融資の最近1年間の利用状況は、利用が「あり」は7.6ポイント増加し38.2%となった。また、日本政策金融公庫や県などの「新型コロナウイルス」対策用の制度融資の利用状況は「すでに利用している」が42.4%だった。特に、県の「コロナ対応資金（ゼロゼロ融資）」の利用状況は、「すでに利用している」が40.5%、「条件が合わず利用しなかった」が23.4%、「制度を知らなかった」は20.0%だった。最近1年間の信用保証協会の保証利用は、2.7%減少し19.9%だった。

最近の諸制度では、「事業引継ぎ支援センター」の認知度が22.2ポイント改善し、51.9%まで高まった。「補助金」の制度は、「すでに利用している」が30.1%と5.5ポイント増加し、利用が進んでいる。2年前に施行された「事業継続力強化計画」認定制度は、「申請・認定を受けた」が2.9%、「今後、申請の予定」が1.4%と低く、「説明を受けたい」も1.8ポイント減少し18.3%となっており、最近の大規模自然災害の増加を考えると、本制度の利用促進に向けて更に努力が必要である。

VI. 今回の特徴点（前回・令和2年7月調査との比較）

1. 企業の経営状況について

(1) 年間売上高は、売上増加企業が2.6ポイント増加し31.1%、売上減少企業は3.4ポイント減少し67.7%となり、引き続き厳しい結果になった。

今後の売上予想では、「増加する」は24.0ポイント増加し38.5%、「減少する」は24.0ポイント減少し59.8%となった。「増加予想－減少予想」は-21.3%で、前回の-69.3%より48.0ポイント改善しており、少し明るい兆しが見えてきた。

業種別では全業種ともに厳しいが、「小売業」は74.9%が減少と特に厳しく、次に「飲食業・宿泊業」「建設業」と続いている。

(2) 採算の状況は「黒字企業」が4.8ポイント増加し27.7%で、「赤字企業」は4.3ポイント減少し33.7%だった。

業種別に見ると、黒字企業が多いのは「建設業」「製造業」、逆に赤字企業が多いのは「飲食業・宿泊業」で、59.1%と全業種中唯一過半数を上回っている。

(3) 今年10～12月の資金繰り予想では、「大変苦しくなる」と「苦しくなる」の合計が13.3ポイント減少し33.6%になったが、「変わらない」も15.0ポイント増加し44.3%となり、低位安定が続いている。

「大変苦しくなる」と「苦しくなる」の合計を業種別に見ると、「飲食業・宿泊業」「小売業」「卸売業」の順で高い。

苦しくなる要因は、「売上が予定額に達しない」と「利益が予定額に達しない」の割合が圧倒的に高く、次いで「借入返済が大きい」「経費の増大」となっている。

(4) 「新型コロナウイルス」の経営への影響は、「深刻な影響がある」が27.1ポイント

減少し 33.1%、「少し影響がある」は 17.8 ポイント増加し 44.8%、「ほとんど影響はない」と「良い影響がある」の合計は 7.8 ポイント増加し 19.6%となり、依然として影響は大きいものの、「コロナ禍」をそれなりに克服してきたこともあり、1 年前に比較するとかなり改善している。

「深刻な影響がある」を業種別に見ると、「飲食業・宿泊業」が 78.0%と多く、「卸売業」50.0%、「小売業」41.6%と続く。最少は「建設業」の 11.2% (29.2 ポイント減少) で、業種によるバラツキが極めて大きい。

影響があると答えた先の直近 3 ヶ月間 (4~6 月) の売上高は前年同期比「20%以上減少」が 17.5%、『0~20%未満の減少』が 32.0%となった。両方の合計を業種別に見ると、「小売業」が 62.1%と最も高く、次いで「飲食業・宿泊業」60.6%、「卸売業」57.2%が高かった。

一方、「増加した」が業種別で最も高いのは「製造業」の 27.0%で、「サービス業」23.3%、「運輸業」21.9%と続く。

- (5) 経営課題は、「販売の強化」「人材の確保・育成」「経費削減」が 3 大課題である。次いで「事業承継」「技術力向上」「設備投資」「商品・サービス開発」が続いている。

2. 金融機関との取引及び借入状況について

- (1) 本年 6 月末の借入状況で、「借入なし」は 2.0 ポイント減少し 24.6%になった。また、従業員規模が小さくなるほど「借入なし」の割合は高く、「21 人以上」が 10.0%に対し、「0 人」では 36.8%が無借金だった。
- 昨年 12 月末との借入額の比較では、「増えた」は 11.5 ポイント減少し 30.0%、「減った」は 4.1 ポイント増加し 37.3%となった。
- (2) 現在の借入平均金利は「1.0%未満」が 10.4 ポイント増加し 21.2%、「1.0~1.5%未満」と「1.5~2.0%未満」の合計は逆に 10.3 ポイント減少し 63.5%となり、この 1 年間で金利は着実に低下した。従来からの低下傾向に加えて、「新型コロナウイルス」対策用の無利子・低金利の特別融資が増加したことも影響していると思われる。
- (3) 最近 6 カ月に借入申込を「した」は 20.1 ポイント減少し 29.2%、業種別には「卸売業」が 47.6%と高く、「建設業」35.2%、「製造業」34.3%と続く。
- (4) 借入返済の条件変更に対しては、「希望する」が 3.5 ポイント減少し 12.7%で、希望する条件変更の内容は「返済期間の延長」が 39.2%で一番多く、次に「元金返済の一時据置 (猶予)」「長期資金への切換」の順だった。条件変更の難易度では、「容易である」と「交渉次第で何とかなる」の合計が 70.1%と高い水準であるが、前年比では 3.1 ポイント悪化し、やや難しくなっている。
- (5) 今後 1 年間の借入計画は、「あり」が 6.9 ポイント減少し 15.6%だった。資金使

途は運転資金では「商品・原材料の現金買い」「諸経費の支払、納税」、設備資金では「工場・店舗の補修・改修」「車両の購入」が多い。

- (6) 借入時に重視する条件は、「金利が低い」が 7.8 ポイント増加し 70.2%と実利重視であるが、一方で「経営上の相談・指導が得られる」が 8.6 ポイント増加し 28.0%、「日頃の付き合い」が 2.7 ポイント増加し 23.0%と間接的な条件も相応に重視する傾向にある。

また、借入を考える場合の懸念事項では、「借入後の返済力」が 69.6%、「業況の先行き見通し難」が 59.0%で 2 大懸念事項になっている。

3. 制度融資について

- (1) 国・県・市町村の制度融資の最近 1 年間の利用状況は、利用が「あり」は 7.6 ポイント増加し 38.2%となった。業種別に見ると、「卸売業」が 60.7%、「製造業」が 50.0%、「飲食業・宿泊業」が 45.5%と利用率が高く、従業員規模別では「21人以上」が 66.0%、「16~20人」が 57.1%、逆に「0人」は 27.2%で、大きいクラスで積極的に利用している。

利用しなかった理由としては、「利用する必要がなかった」が 81.3%と圧倒的に多く、次いで「制度融資を知らなかった」6.0%、「手続きが面倒だから」5.2%が続いている。

- (2) 国・県・市町村の制度融資は、「経営の役に立っている」と回答した企業は 98.2%だった。ただ一方では、「無利子期間を延長してほしい」「金利を安くしてほしい」「借入期間を長くしてほしい」等の意見も寄せられている。

また、日本政策金融公庫の「マル経融資」の経営上の有用性については、「大変役に立っている」「役に立っている」の合計が 4.1 ポイント減少し 51.6%。一方で「知らなかった」も 1.3 ポイント増加し、22.5%と依然として高く、一層の周知が望まれる。

- (3) 日本政策金融公庫・県などの「新型コロナウイルス」対策用の制度融資の利用状況は、「すでに利用している」が 42.4%、「これから利用する予定」が 5.1%だった。

「すでに利用している」を業種別に見ると「卸売業」が 57.1%、次に「製造業」54.1%、「飲食業・宿泊業」50.8%の順で高かった。

特に、県の「コロナ対応資金（ゼロゼロ融資）」の利用状況は、「すでに利用している」が 40.5%、「条件が合わず利用しなかった」が 23.4%、「制度を知らなかった」が 20.0%だった。この「コロナ対応資金（ゼロゼロ融資）」が再開された場合の利用希望は、「希望する」が 31.5%、「希望しない」が 57.5%となった。

- (4) 最近 1 年間の信用保証協会の保証利用は、2.7 ポイント減少し 19.9%だった。保証手続きについては、「円滑に保証が受けられた」と「少し難しかったが受けられた」の合計は 94.7%と高い水準だった。

信用保証協会の対応については、「訪問を受け意見交換した」「直接説明を受けた」「対応が丁寧」の評価意見が2.4ポイント減少し15.2%、変わらないが7.7ポイント増加し76.6%、「厳しくなった」は1.8ポイント減少し2.4%だった。他に「保証料が高い」「保証条件の緩和」「審査内容を教えてほしい」等の意見があった。

4. 最近の諸制度について

(1) 「ビジネス創造支援事業」の専門家派遣については、「利用したことがある」は1.1ポイント増加し8.1%になった。「関心があり相談したい」「内容の説明を受けたい」の合計は0.9ポイント増加したが、10.6%と依然として低く、新しい先への周知が必要と思われる。

(2) 事業承継について、「事業引継ぎ支援センター」の認知度は、「知っている」が22.2ポイント増加し51.9%と大きく改善した。

事業承継における後継者対策については、「後継者決定」「後継者候補がいる」の合計は1.7ポイント減少し21.0%だった。「後継者がいない」は6.4%、「廃業予定」「事業承継か廃業か検討中」の合計は14.8%となった。それぞれの問題解決のために、「事業引継ぎ支援センター」の積極的な利用が望まれる。

(3) 最近の「補助金」制度については、「すでに利用している」が5.5ポイント増加し30.1%と着実に利用が進んでいる。

業種別に見ると、「製造業」48.8%、次いで「サービス業」「飲食業・宿泊業」の順に利用度が高い。

(4) 「経営力向上計画」認定制度については、「申請・認定を受けた」は1.0ポイント増加したものの4.7%と低い。「説明を受けたい」も0.6ポイント増加の16.9%で、全体として関心が薄い。

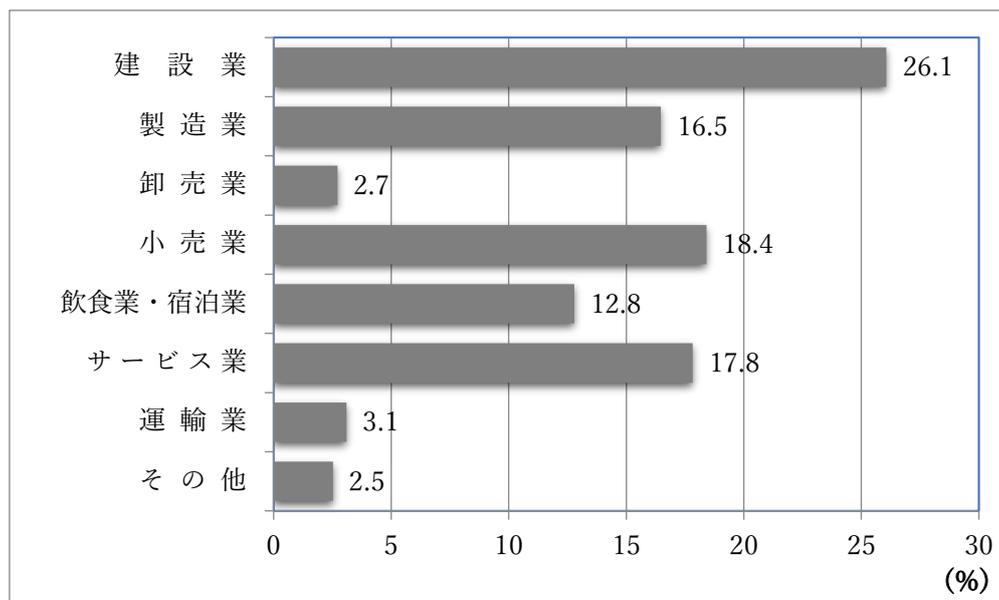
業種別に見ると、「申請・認定を受けた」は「製造業」が9.4%で一番高く、「説明を受けたい」は「卸売業」が25.0%と最も関心が高い。

(5) 「事業継続力強化計画」認定制度は、2年前に施行された制度だが、「申請・認定を受けた」が2.9%、「今後、申請の予定」が1.4%と低い。「説明を受けたい」も1.8ポイント減少し18.3%となっており、最近の大規模自然災害の増加を考えると、本制度の利用促進に向けて更に努力していく必要がある。

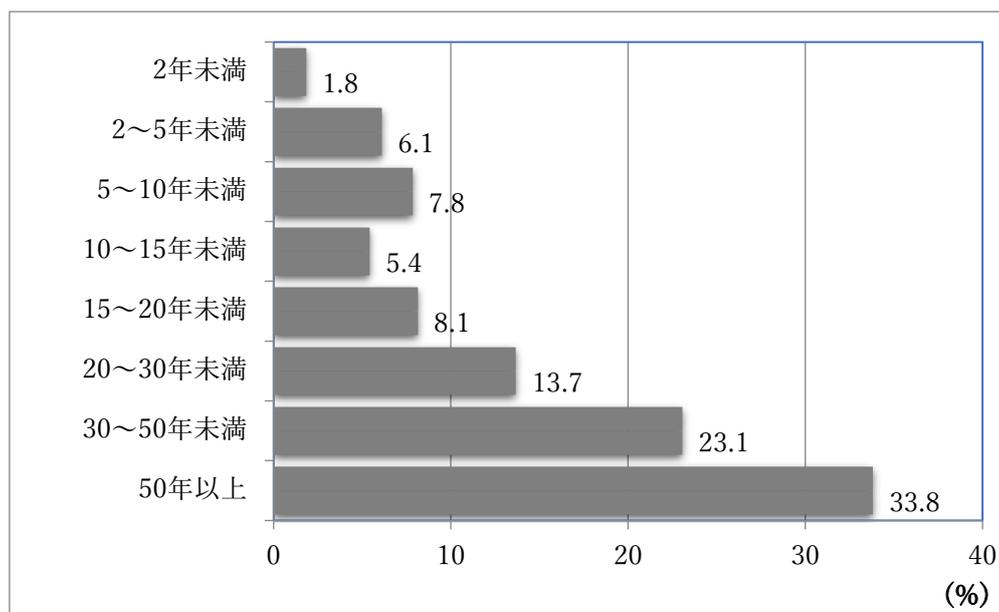
Ⅶ. 項目別の回答は以下のとおりである。

1. 回答企業の概要

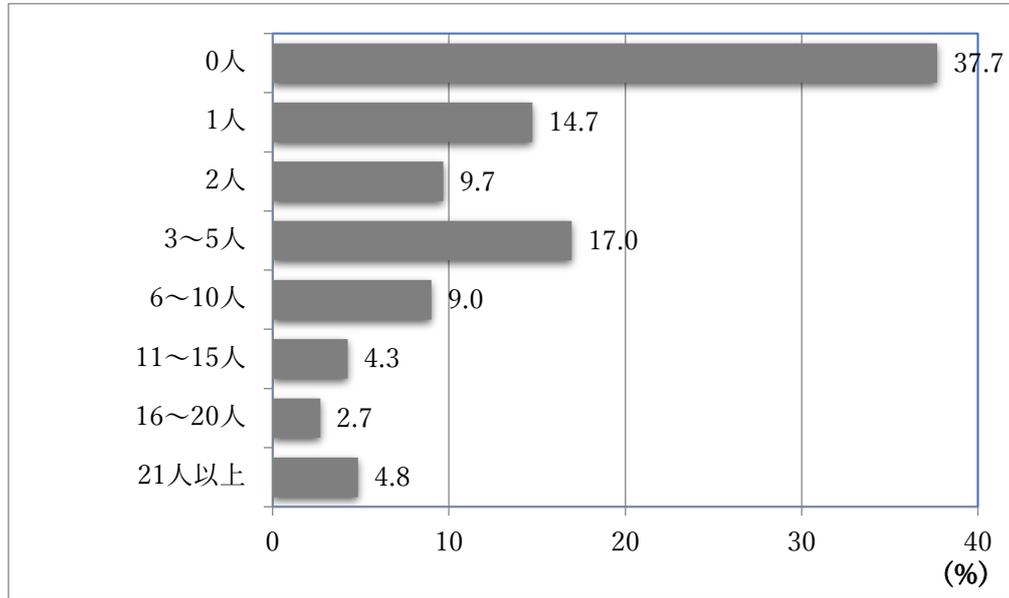
(1) 業種



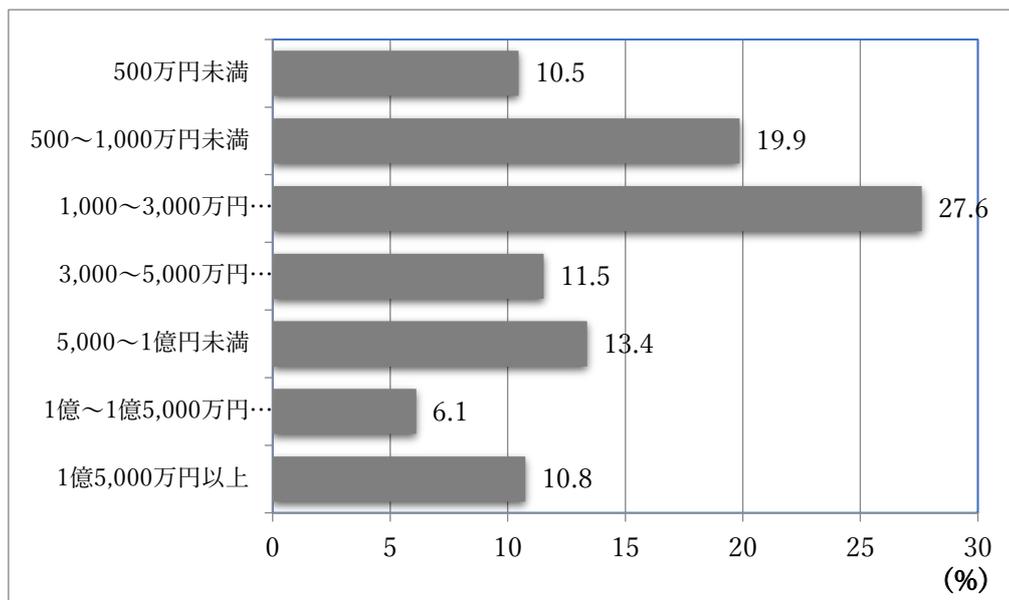
(2) 創業してから何年



(3) 常用従業員



(4) 年間売上高

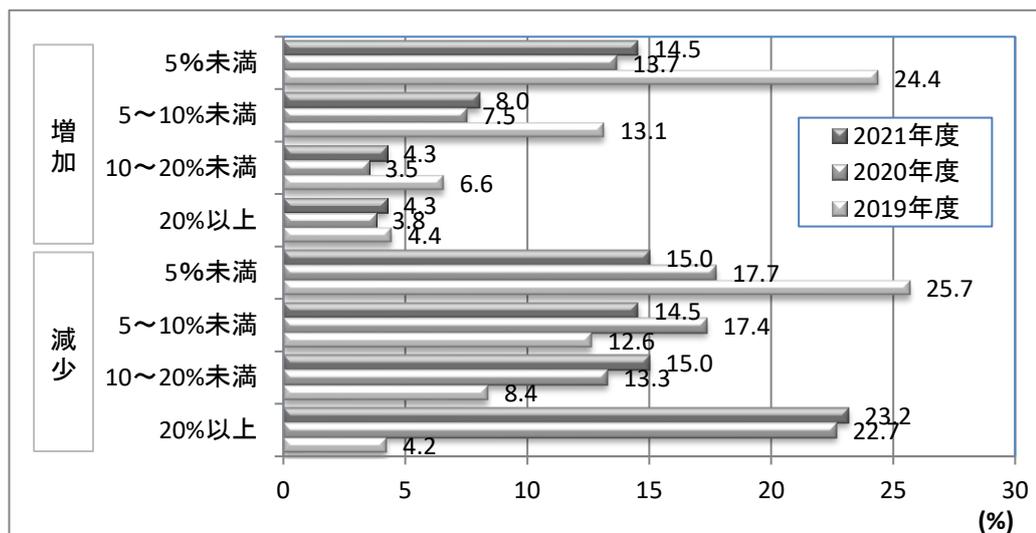


2. 経営の状況

(1) 年間売上高の増減率（対前年比）

売上増加企業は、前年比 2.6 ポイント増加し 31.1% となり、売上減少企業は、前年比 3.4 ポイント減少し 67.7% になった。

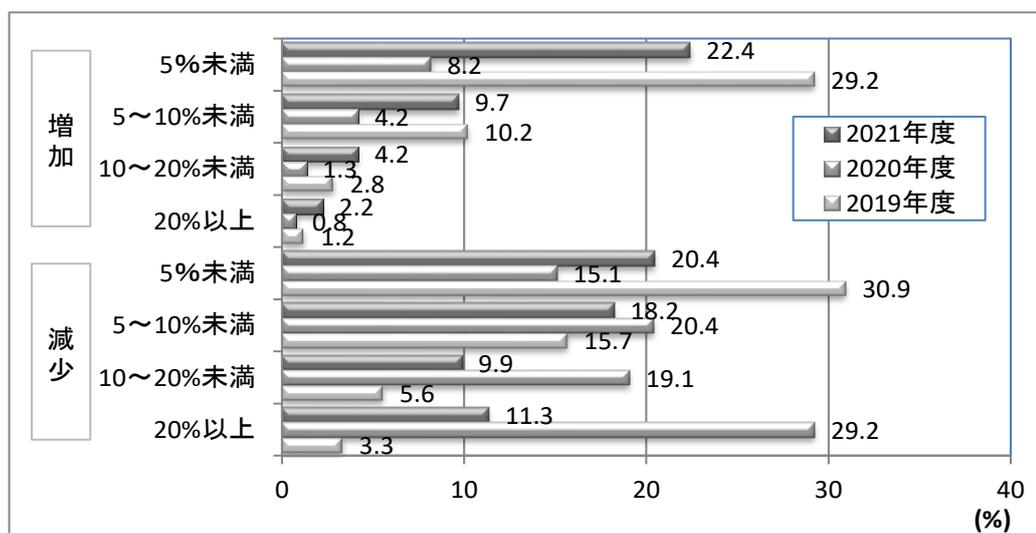
業種別に見ると、増加は「建設業」「サービス業」「運輸業」が多く、減少は「卸売業」「飲食業・宿泊業」「小売業」の順が多い。



(2) 今後の売上高予想

今後の売上高予想では、「増加する」と回答した割合は全体の 38.5% で前年比 24.0 ポイント増加、逆に「減少する」と回答した割合は全体の 59.8% で前年比 24.0 ポイント減少。前年比改善しているものの、依然として「新型コロナウイルス」の影響を反映し、厳しい見方の方が多い。

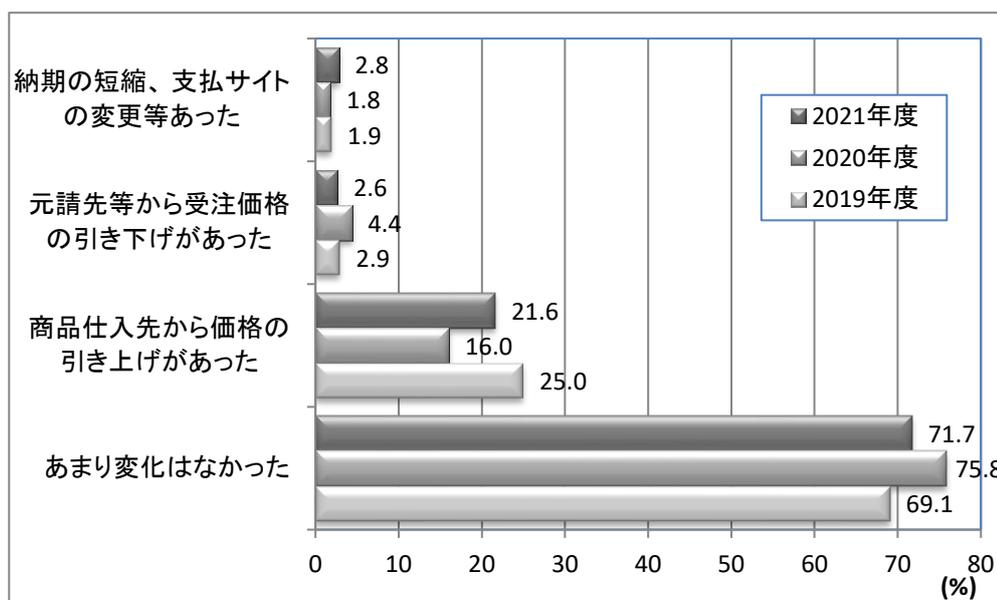
業種別に見ると、「小売業」は 74.9% が減少と特に厳しく、次に「飲食業・宿泊業」「建設業」と続く。「製造業」は、増加するが過半の 50.0% となった。



(3) 取引条件の変更

ここ1年間の商品仕入れ先、工事元請先、製造発注元等との取引条件の変更では、27.0%の先が何らかの取引条件の変更を強いられた。前回比では4.8ポイント増加（悪化）している。

業種別では「建設業」「製造業」がともに4割弱と多かった。また、全体の71.7%（前回比4.1ポイント減少）が変化はなかったと回答。

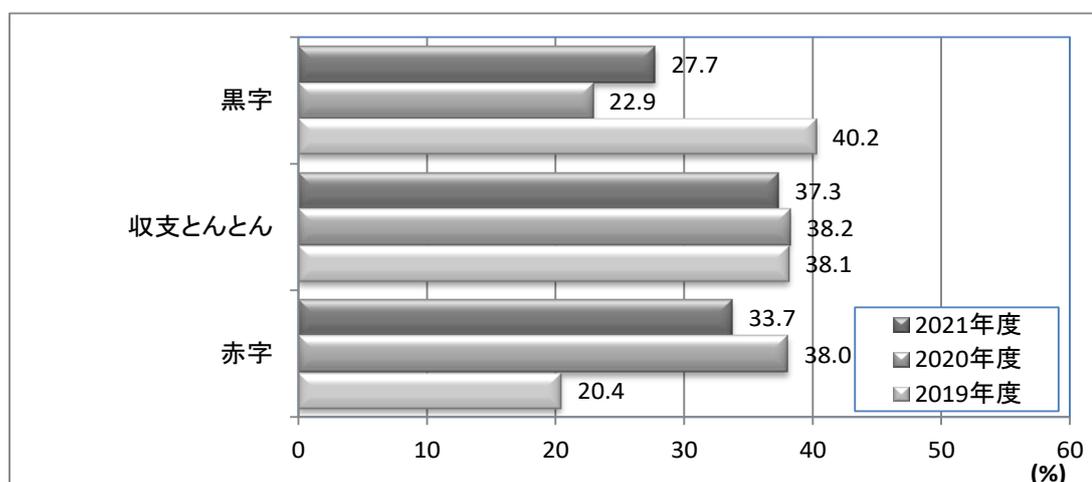


(4) 採算の状況

ア. 現在の採算状況

「黒字」と回答した割合は27.7%と前回比4.8ポイント増加した。「赤字」と回答した割合は33.7%と前回比4.3ポイント減少し、「収支とんとん」は前回比ほぼ横這いの37.3%（0.9ポイントの減少）。

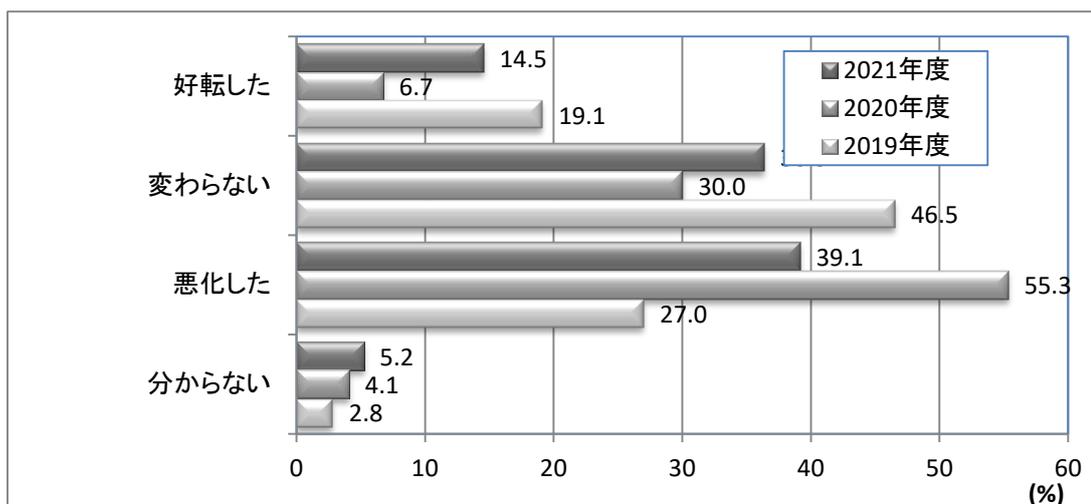
業種別に見ると黒字企業が多いのは「建設業」「製造業」で、逆に赤字企業が多いのは「飲食業・宿泊業」「卸売業」で、特に「飲食業・宿泊業」は前回比7.7ポイント悪化し59.1%と、全業種中唯一過半数を上回っている。



イ. 採算状況（対前回比較）

採算状況は「悪化した」が39.1%で前回比16.2ポイントの減少、逆に「好転した」は14.5%と前回比7.8ポイント増加し改善傾向が見られる。

業種別では「飲食業・宿泊業」で「悪化した」が62.1%となり、前回比12.9ポイント改善したが全業種の中で最も厳しい。また、従業員規模別では、「好転した」が「3～5人」以下の小さいクラスでは1割前後、「6～10人」以上の大きいクラスでは2割前後と規模別に差が開いた。

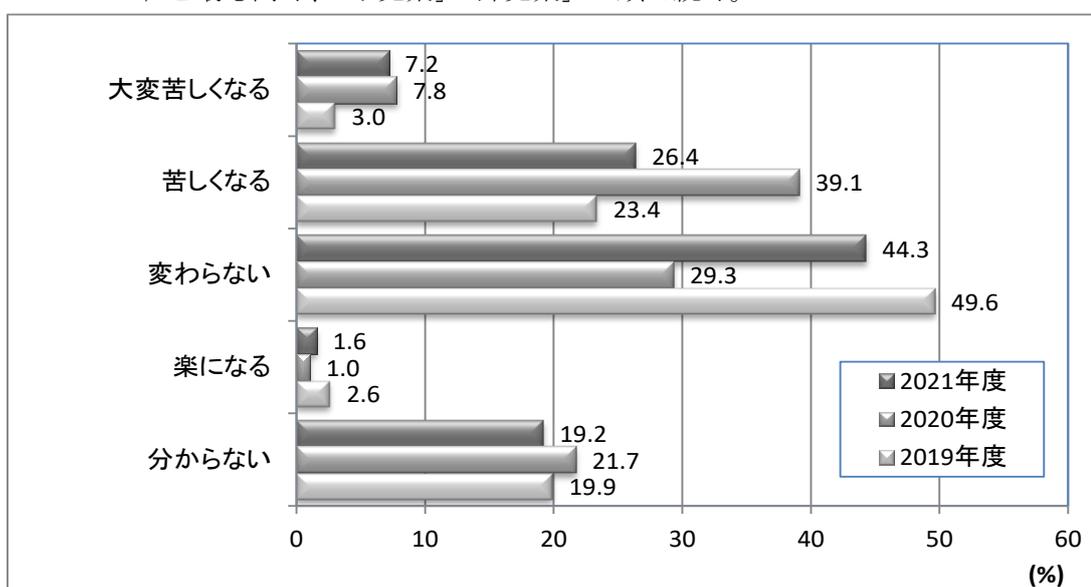


(5) 資金繰りの状況

ア. 今年10～12月の資金繰り予想

「大変苦しくなる」と「苦しくなる」の合計は33.6%と前回比13.3ポイント減少したが、「変わらない」は前回比15ポイント増加し44.3%、「楽になる」は前回比0.6ポイント増加の1.6%となり、低位安定の状態が続いている。

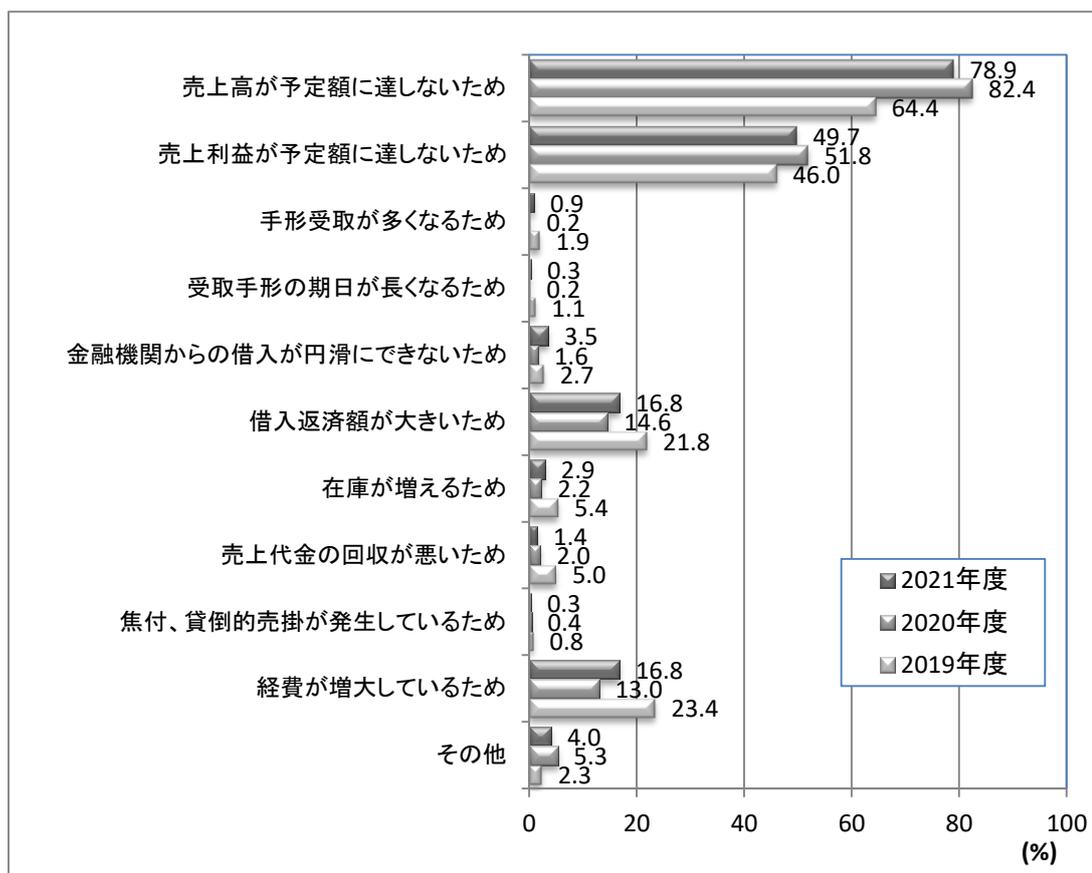
「大変苦しくなる」「苦しくなる」を業種別で見ると、「飲食業・宿泊業」が50.0%と最も高く、「小売業」「卸売業」の順で続く。



イ. 資金繰りが苦しくなる原因（2つ以内で回答）

苦しくなる原因は、「売上が予定額に達しない」と「売上利益が予定額に達しない」が多く、次いで「借入返済額が大きい」「経費の増大」となっている。

その他では「材料代の値上げがこの1年間で30%以上」（建設業）、「仕入原価の高騰」（卸売業）等があった。



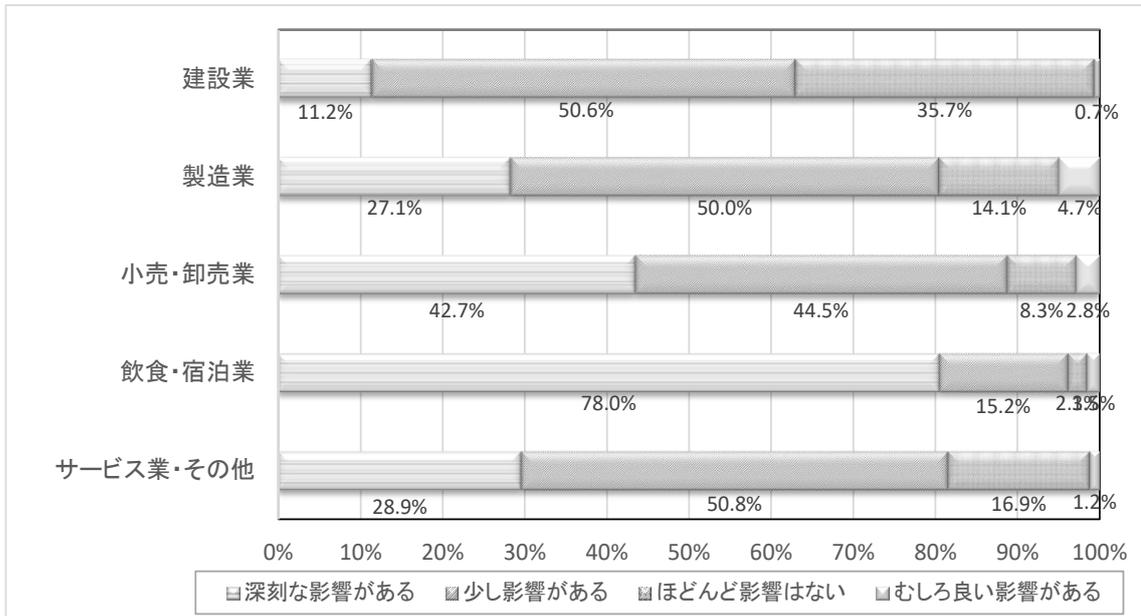
(6) 「新型コロナウイルス」の影響

ア. 経営への影響

「深刻な影響がある」が27.1ポイント減少し33.1%、「少し影響がある」は17.8ポイント増加し44.8%、「ほとんど影響なし」と「良い影響がある」の合計は7.8ポイント増加し19.6%となり、着実に「コロナ禍」を克服しつつある。

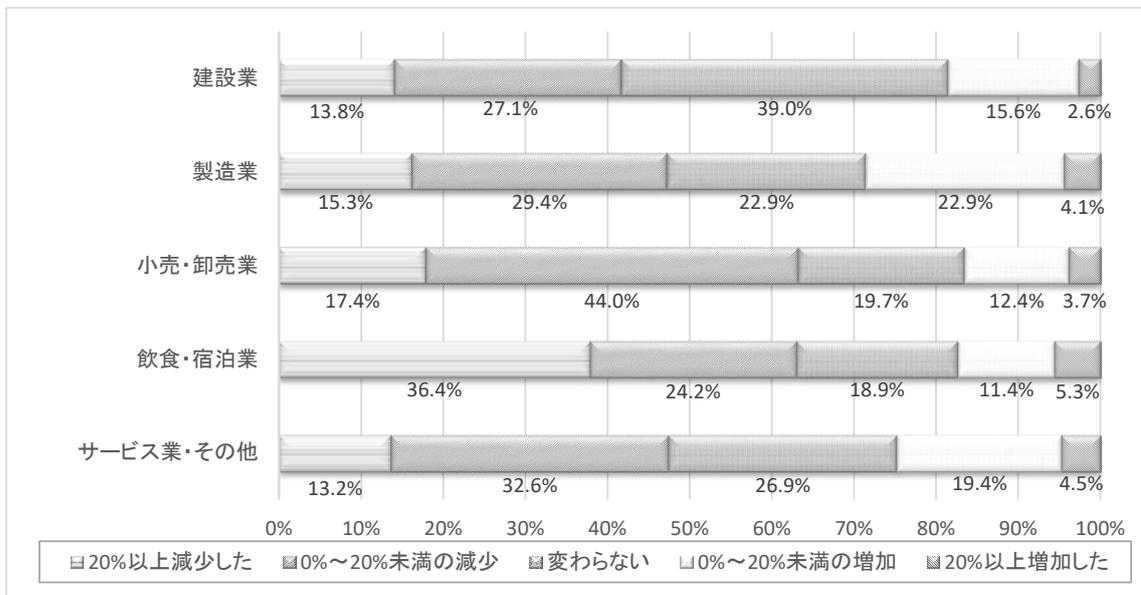
業種別には「深刻な影響がある」は「飲食業・宿泊業」で78.0%と最も高く、逆に最も低いのは「建設業」の11.2%。因に「建設業」は「少し影響がある」と「ほとんど影響はない」で86.3%を占め、「新型コロナウイルス」の経営への影響は、業種によるバラツキが大きい。

従業員規模別には特に大きな差異は見られない。



イ. 直近3ヶ月間の売上高（前年同期比）

「20%以上減少」が17.5%、「0~20%未満の減少」と「変わらず」の合計は58.9%、「増加」が20.4%で下げ止まってきた。しかし、前回「30%以上減少」が55.4%であったことを考慮すると、下げ止まったままでの低位安定の状態が続いているとも言える。



ウ. ウイズコロナ・ポストコロナの時代に対応するため取組んでいること
—— 全部で143件の回答が寄せられた

①営業面での取組み --- 64件

a. 新商品開発、新分野進出等への取組み --- 29件

- ・業種別に見ると、「飲食業・宿泊業」で「テイクアウト商品の開発・充実」が7件の他、「個人向けプランの充実」「キッチンカー営業」等の取組みがみられた。
- ・「製造業」では「新商品の開発」が6件と最も多い。
- ・「小売業」では「コロナ関連商品の品揃え強化」が3件、「業態転換」が2件。
- ・その他では、美容室で「店内に託児スペースを作りパートの保母さんを置いたところ、新規のお客様が増えた」という回答もあった。

b. ITを活用した販促、販売等 --- 25件

- ・「SNSを活用した販促」や「ECサイトでの販売」に関しては全業種ともに高い関心を持っており、特に「小売業」8件、「製造業」7件、「サービス業」6件の取組みが目立った。

c. その他 --- 10件

- ・「顧客ニーズに柔軟に対応する」（サービス業）、「巣ごもり需要を取込む」（製造業）、「チラシ折込みで集客」（小売業）等があった。

②感染防止への取組み --- 46件

- ・「マスク」「消毒」「アクリル板設置」「換気」「空気清浄機設置」等の感染防止対策 ---38件
- ・非接触型「キャッシュレス決済の導入」 --- 3件
- ・その他には「抗原検査を3週間に1回実施」（建設業）、「個室の新設」（サービス業）、「テレワークルールの増築」（飲食業・宿泊業）等があった。

③補助金、助成金の活用 --- 11件

④経費等の圧縮 --- 9件

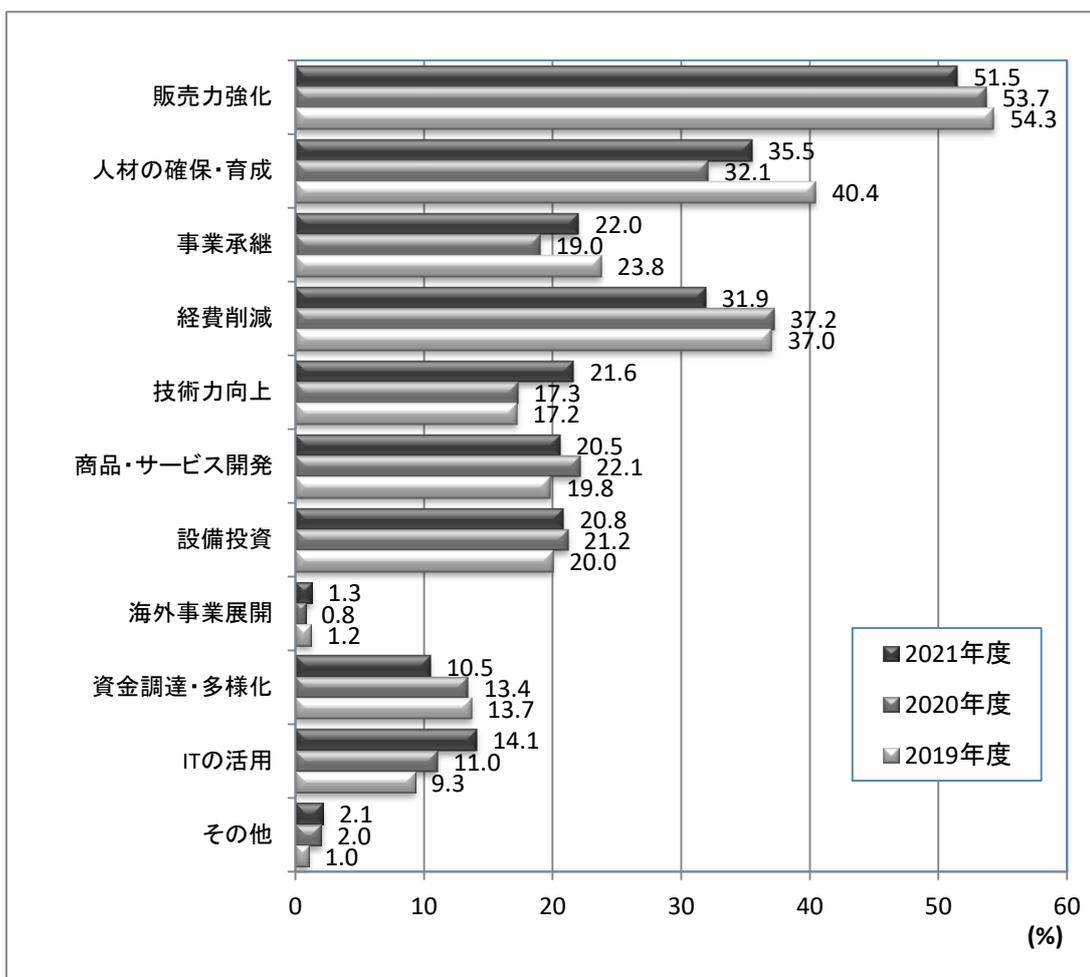
⑤その他 --- 13件

- ・「人材の確保」4件、「廃業を検討」（サービス業）、「我慢する」（飲食業・宿泊業）、「先行きが不透明なため何もできない」（飲食業・宿泊業）等の回答もあった。

(7) 現在の経営課題について（3つ以内で回答）

「販売の強化」「人材の確保・育成」「経費削減」が3大課題である。3大課題に次いで「事業承継」「技術力向上」「設備投資」「商品・サービス開発」が続く。

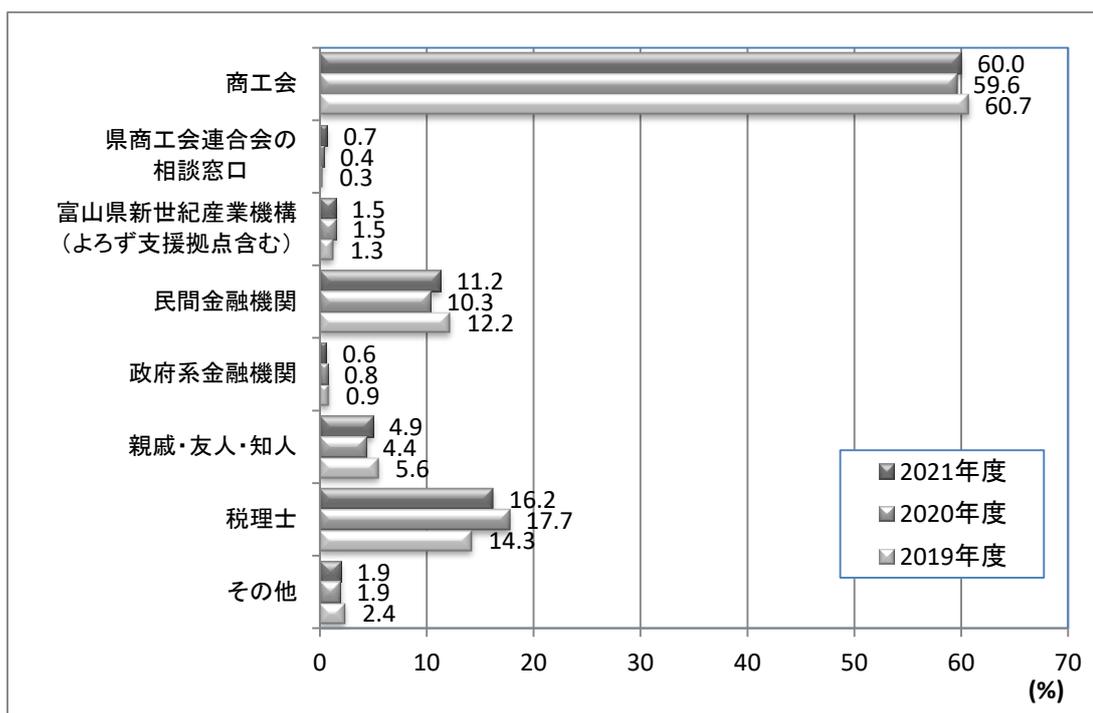
その他では「コロナ禍」5件「建築資材の確保」「事業転換」等があった。



(8) 経営課題や問題が生じた場合の相談先

経営上問題が生じた時、相談に行くところでは「商工会」「税理士」「民間金融機関」が多かった。

その他では、「関連会社」3件、「同業者」2件、「株主」等が挙げられたが、「自分で解決する」も4件あった。

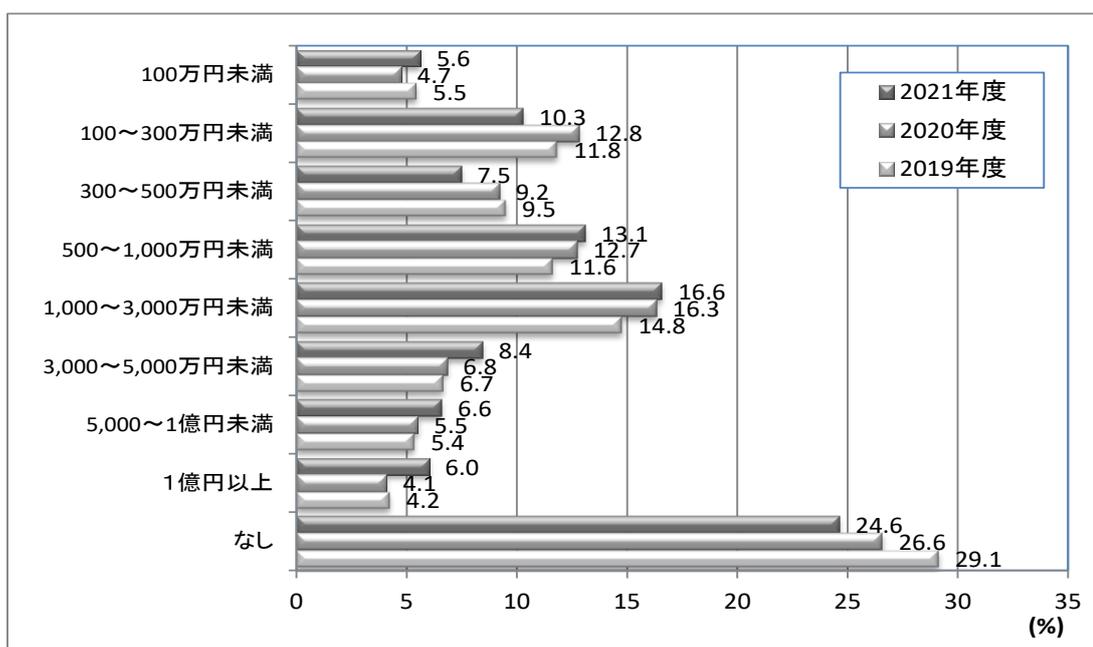


3. 金融機関との取引状況等

(1) 今年6月末の借入額

「借入なし」は前回比 2.0 ポイント減少し 24.6%、業種別では「小売業」「サービス業」「建設業」の順に「借入なし」が多かった。

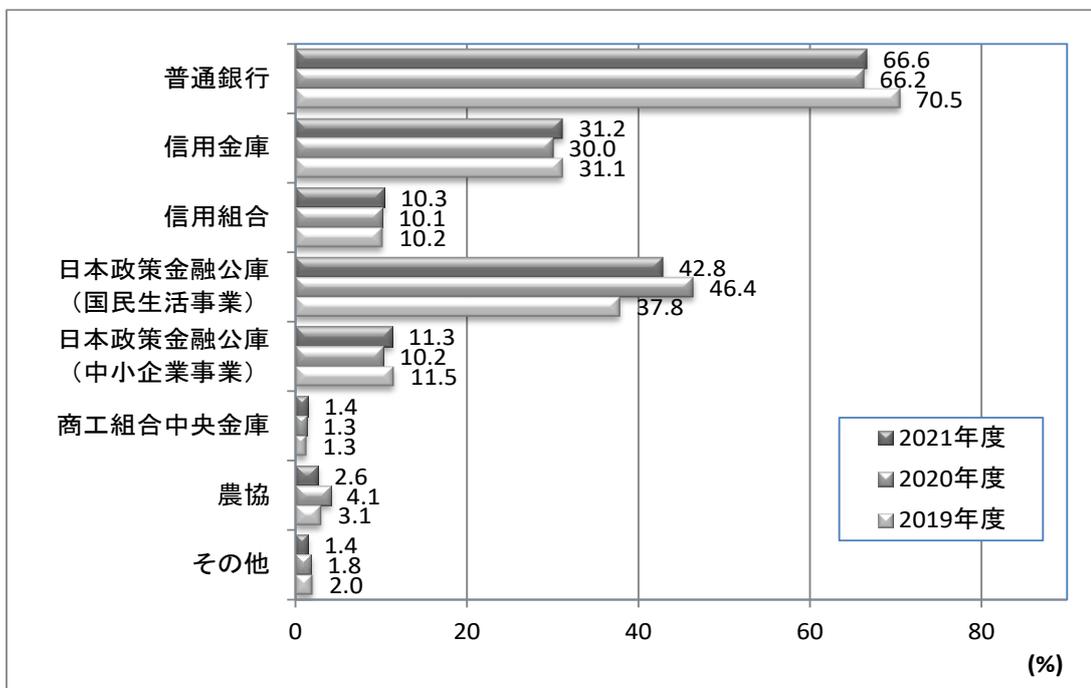
従業員規模別では、規模が小さくなるほど「借入なし」の割合は高く、従業員「21人以上」の 10.0%に対し、「0人」では 36.8%と 3分の1以上が無借金である。



(2) 現在の借入先（多い順に3つ以内で回答）

一番多いのが「普通銀行」で前回比 0.4 ポイント増加し 66.6%、次が「日本政策金融公庫（国民生活事業）」で前回比 3.6 ポイント減少し 42.8%となった。

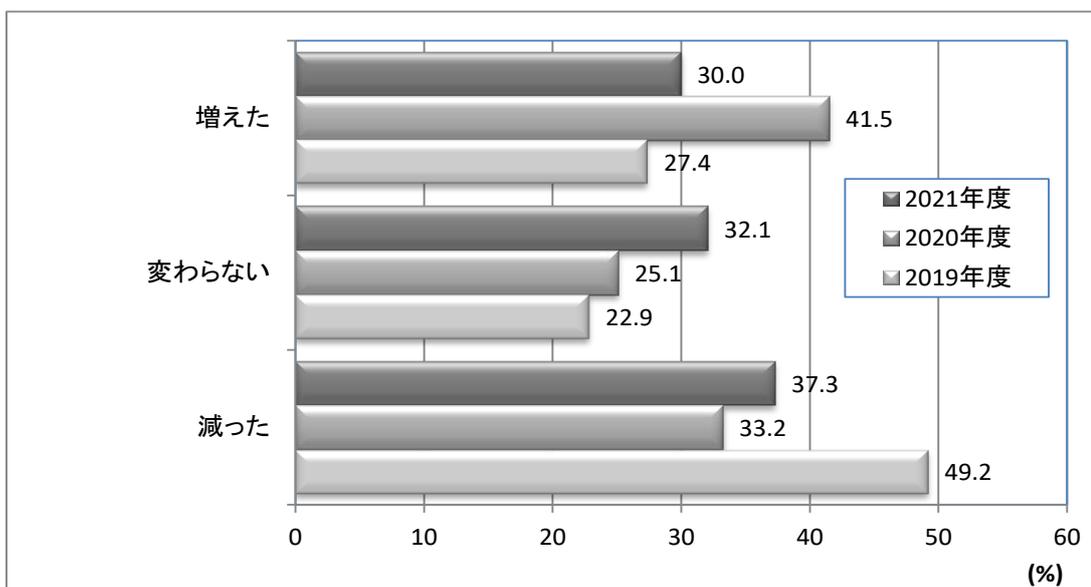
その他には「個人」4件、「役員」「家族」等があった。



(3) 借入額の増減（昨年12月頃と比較）

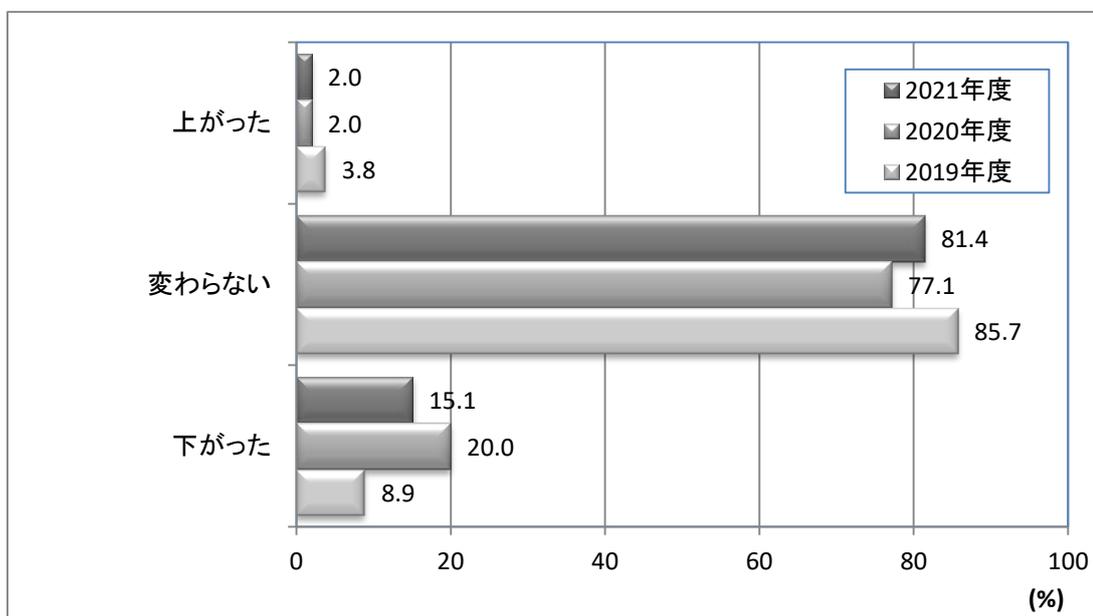
「増えた」は前回比 11.5 ポイント減少し 30.0%、「減った」は前回比 4.1 ポイント増加し 37.3%になった。

業種別に見ると「増えた」企業の割合が多いのは「飲食業・宿泊業」で 35.8%、逆に「減った」が多いのは「運輸業」50.0%、「建設業」42.5%となった。



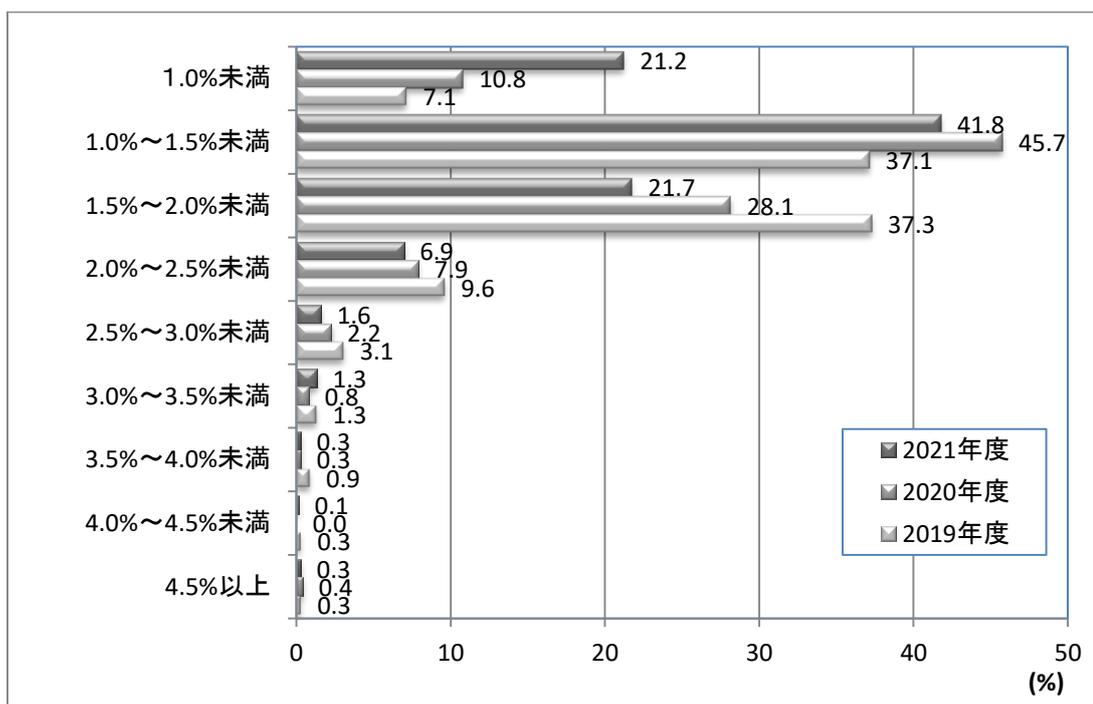
(4) 借入金利の変動（昨年12月頃と比較）

「下がった」は前回比4.9ポイント減少し15.1%になったが、「上がった」の2.0%を大きく上回った。一方、「変わらない」は前回比4.3ポイント増加し81.4%、今年に入って金利は、これ以上下がる水準に達しつつあると思われる。



(5) 現在の借入金利（平均）

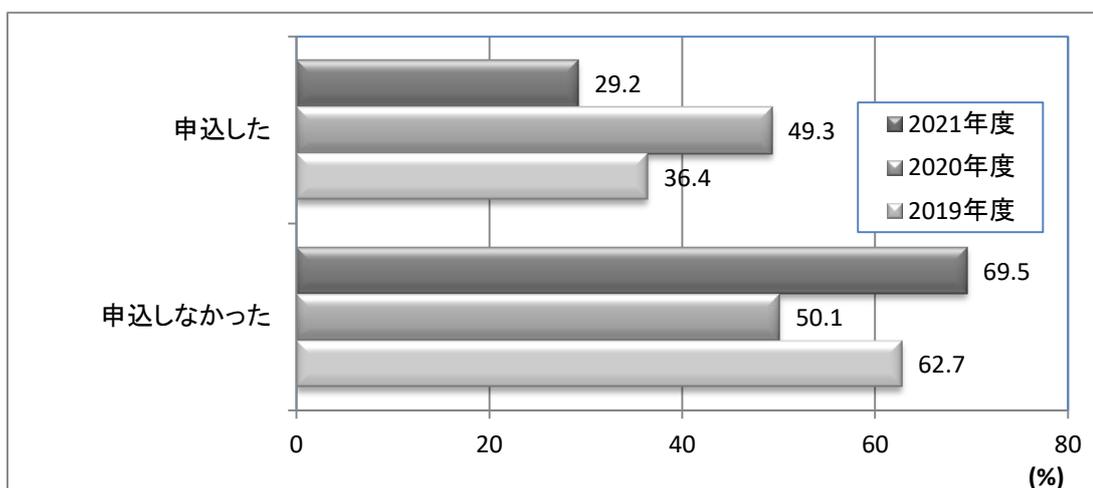
平均金利は「1.0%未満」が前回比10.4ポイント増加し21.2%、逆に「1.0%～1.5%未満」は前回比3.9ポイント減少し41.8%、「1.5%～2.0%未満」も前回比6.4ポイント減少し21.7%となり、この1年間で金利は着実に低下した。



(6) 最近 6 ヶ月間の借入申込（申込実績）

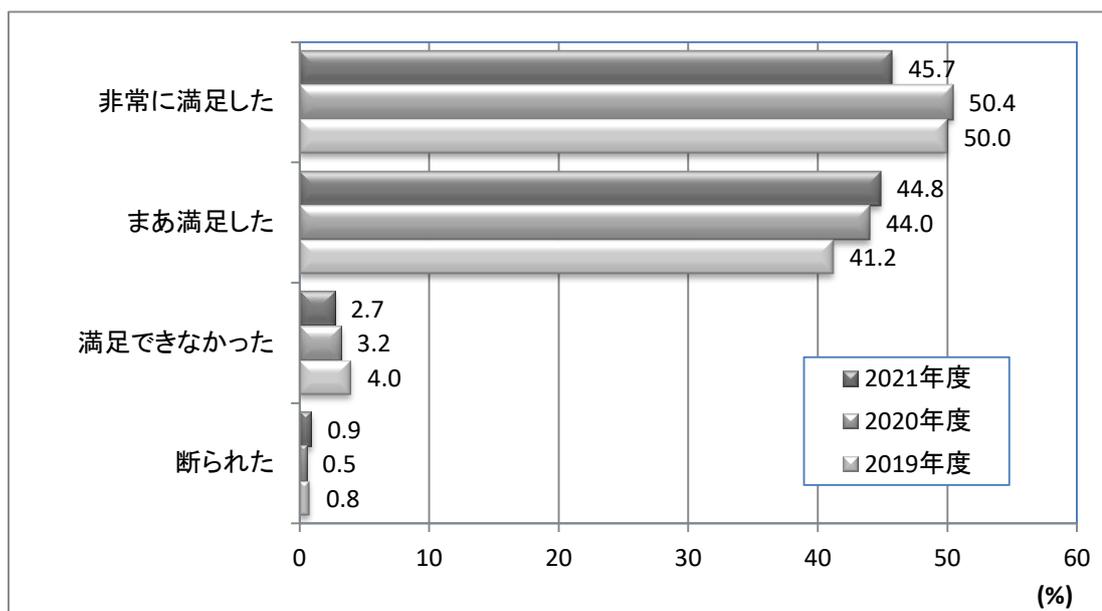
「申込した」は前回比 20.1%減少し 29.2%だった。業種別に見ると「卸売業」が 47.6%と高く、「建設業」 35.2%、「製造業」 34.3%と続く。

従業員規模別では前回同様「21 人以上」が 48.9%と最も高いが、前回比では 35.3ポイントの大幅な減少となった。



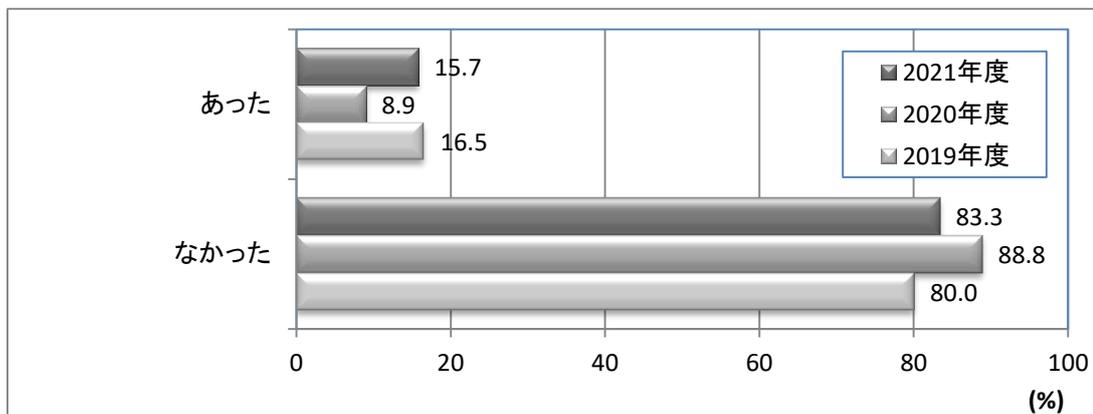
(7) 借入の満足度

「非常に満足した」「まあ満足した」の合計は、前回比 3.9ポイント減少したが 90.5%と高水準だった。「満足できなかった」は前回比 0.5ポイント減少し 2.7%、「断られた」は 0.9%だった。



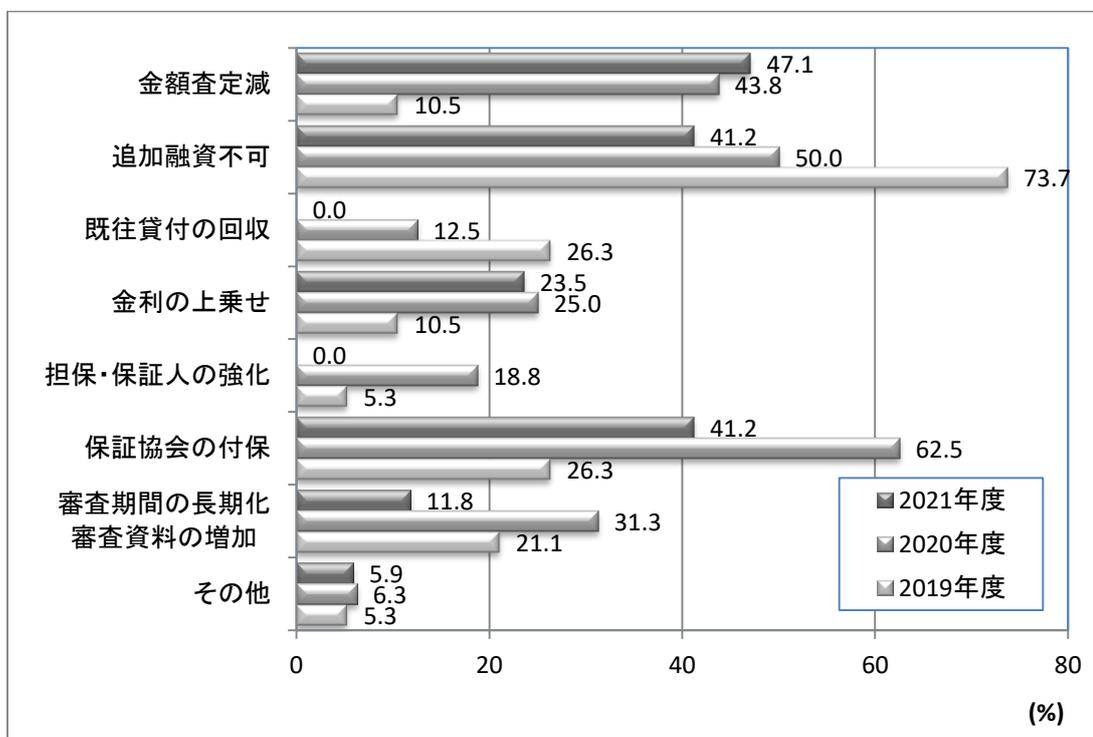
(8) 「貸し渋り」の有無

「あった」が前回比 6.8 ポイント増加し 15.7%、「なかった」は前回比 5.5 ポイント減少し 83.3%になった。



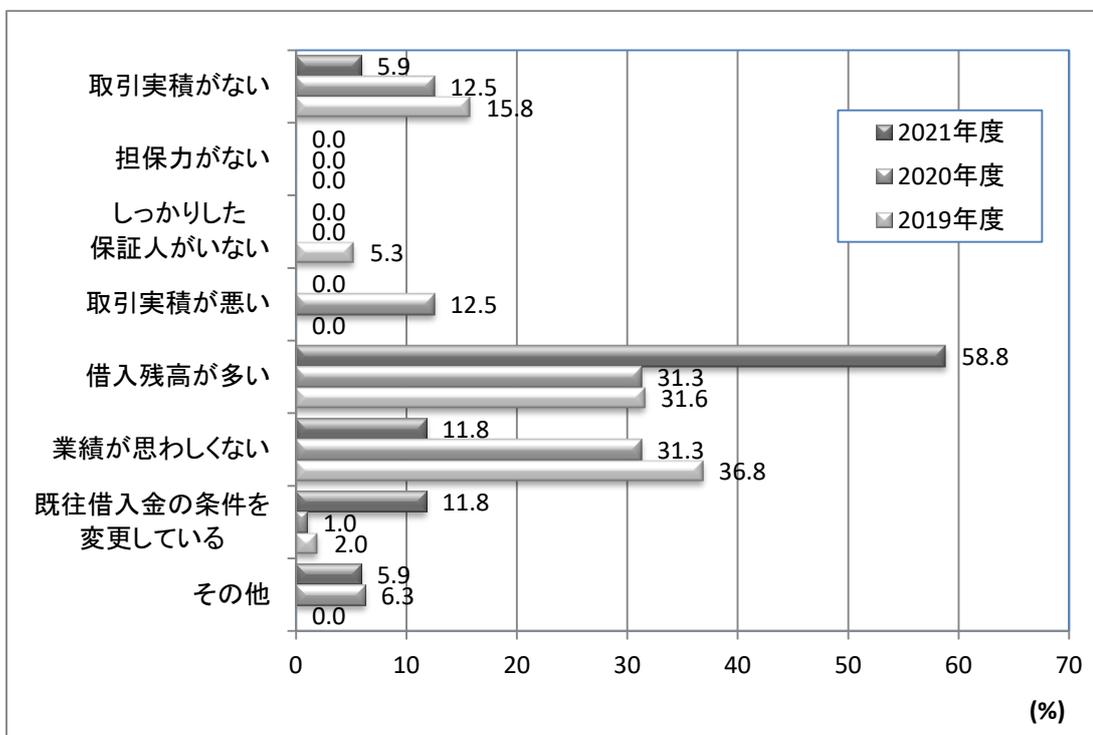
(9) 「貸し渋り」の内容 (3つ以内で回答)

「金額査定減」「保証協会の付保」「追加融資不可」「金利の上乗せ」の順に多かった。



(10) 借りにくい、借りられない理由

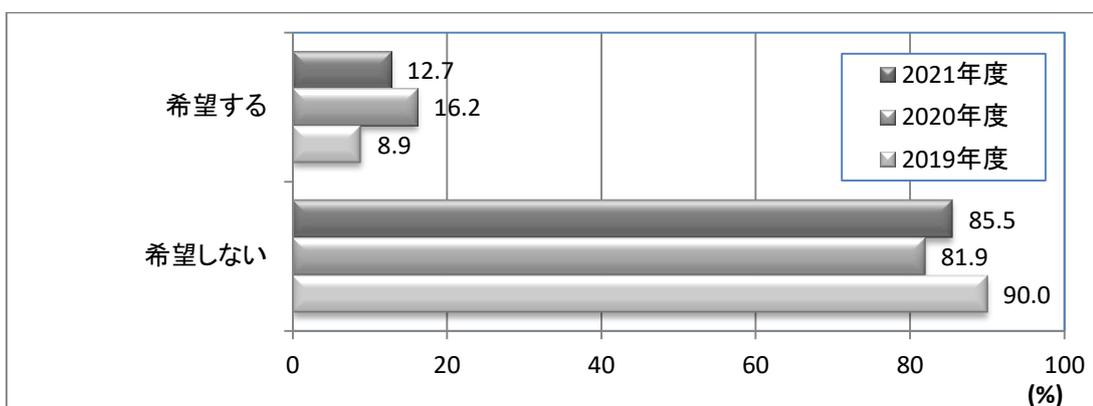
「借入残高が多い」が58.8%、「業績が思わしくない」「既往借入金の条件を変更している」がともに11.8%で、この3項目が主な要因となっている。



(11) 借入返済の条件変更（希望の有無）

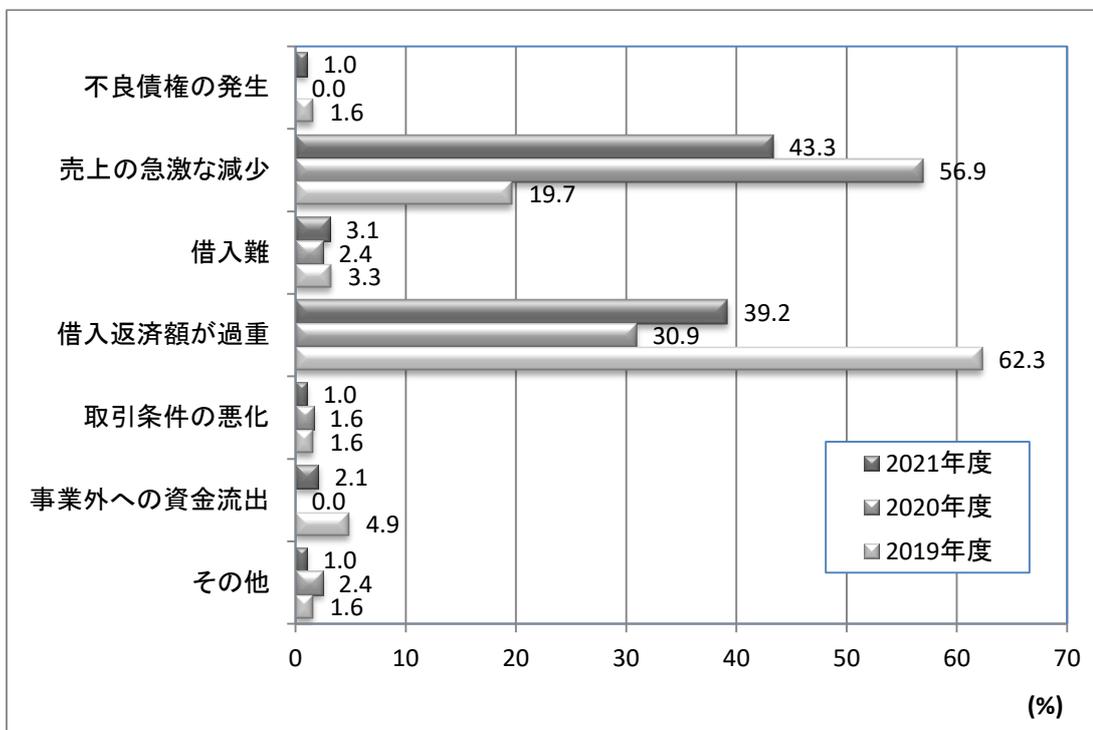
条件変更を「希望する」割合は、前回比3.5ポイント減少し12.7%だった。

業種別では「飲食業・宿泊業」が21.1%、次に「卸売業」「小売業」「製造業」の順で「希望する」割合が多かった。



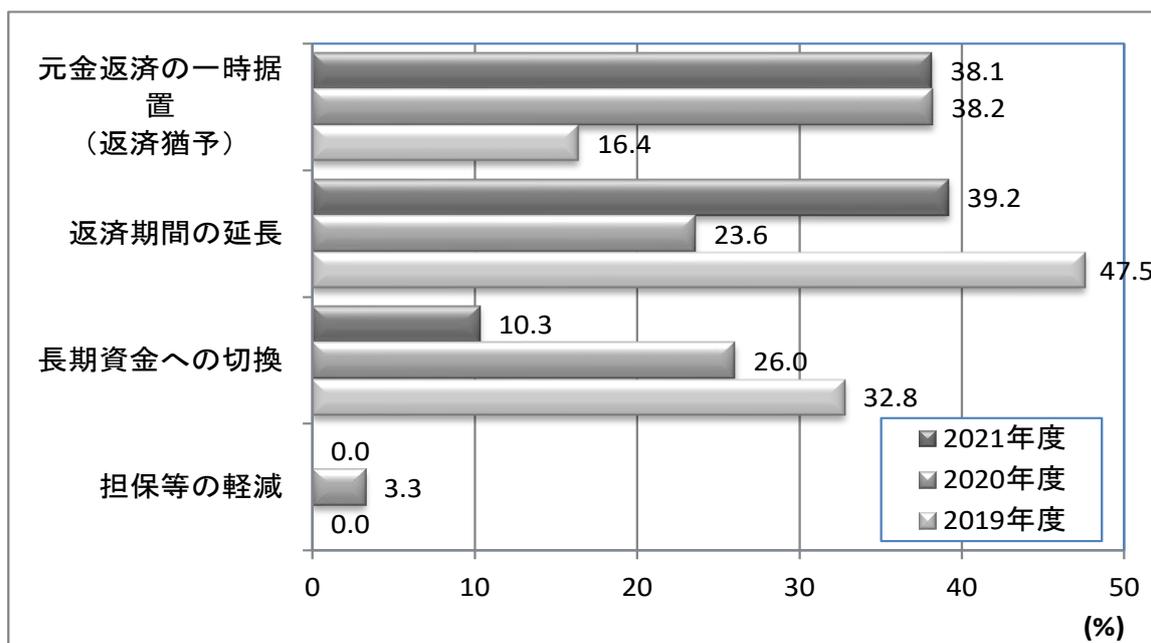
(12) 条件変更を希望する理由

「売上の急激な減少」が 43.3%、「借入返済が過重」が 39.2%とこの 2 項目が主な理由になっている。



(13) 希望する変更内容

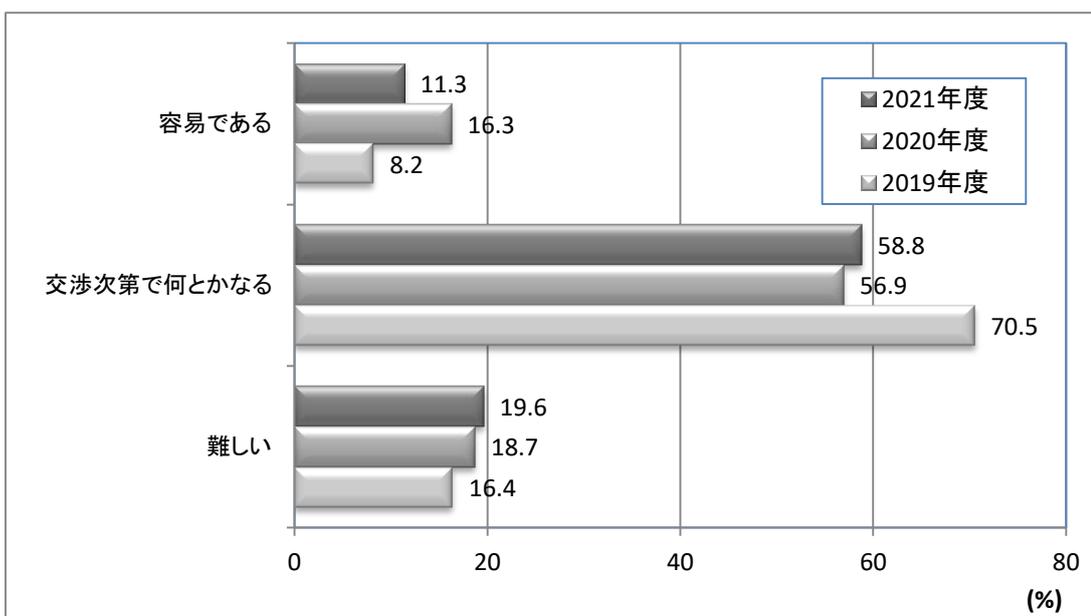
「返済期間の延長」が前回比 15.6 ポイント増加し 39.2%、「元金返済の一時据置」が前回比 0.1 ポイント減少し 38.1%になった。



(14) 条件変更の難易度

「容易である」が前回比 5.0 ポイント減少し 11.3%、「難しい」も前回比 0.9 ポイント増加し 19.6%と、やや条件変更が難しくなっている。

「難しい」の具体的な理由として、「過去に条件変更をしてもらっているため」や「住宅ローンのため」という回答があった。

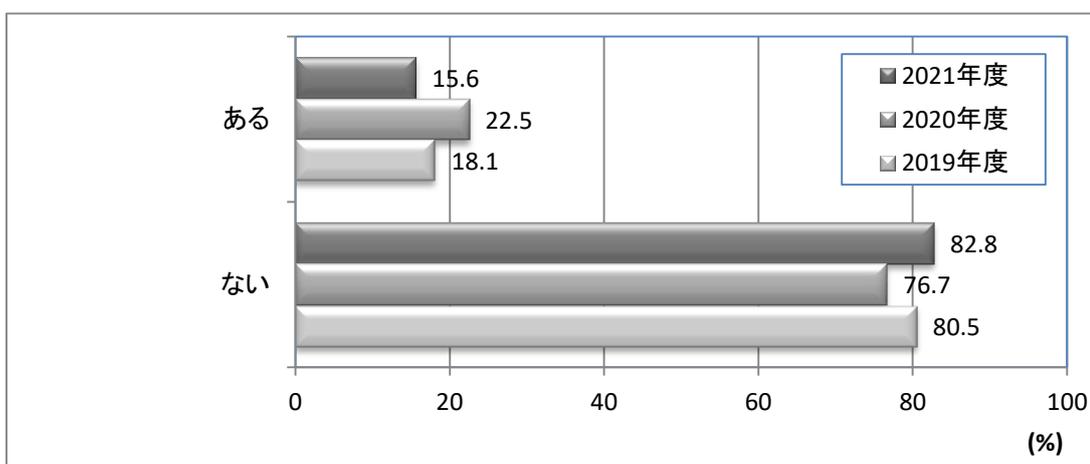


4. 今後の借入計画等

(1) 今後1年間の借入計画

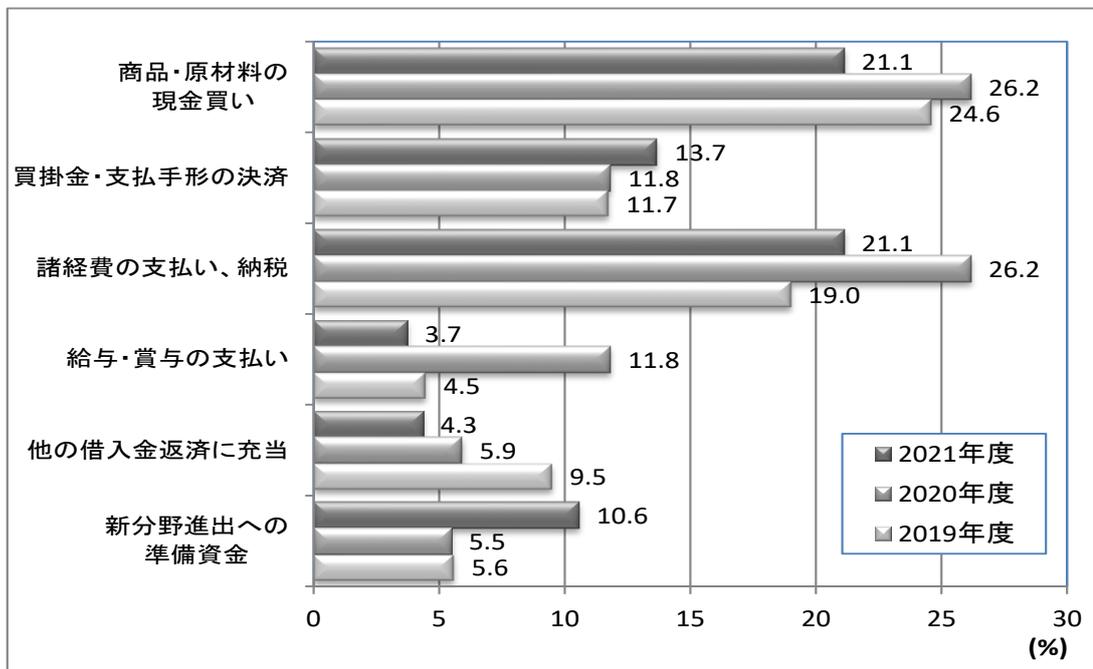
「借入計画がある」は前回比 6.9 ポイント減少し 15.6%だった。

「借入計画がある」を業種別に見ると、「運輸業」28.1%、「製造業」20.6%、「卸売業」17.9%の順に多い。



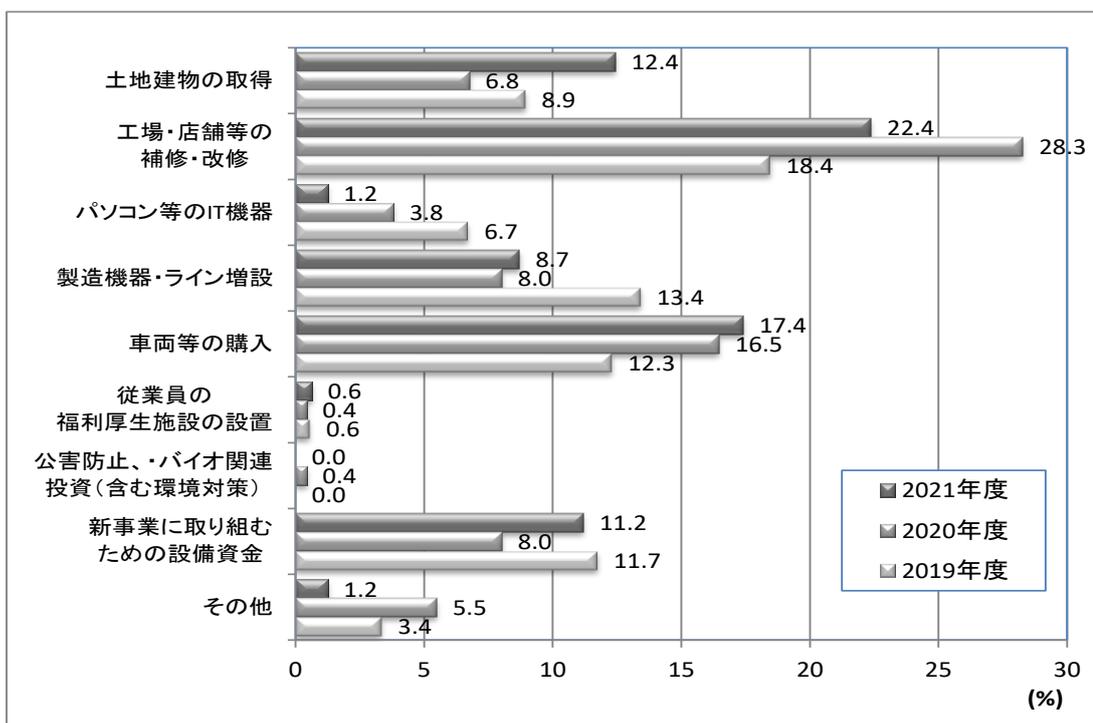
(2) 運転資金の場合の資金使途

運転資金では、「商品・原材料の現金買い」「諸経費の支払、納税」が多い。「新分野進出への準備資金」は10.6%で、前回比5.1ポイント増加した。



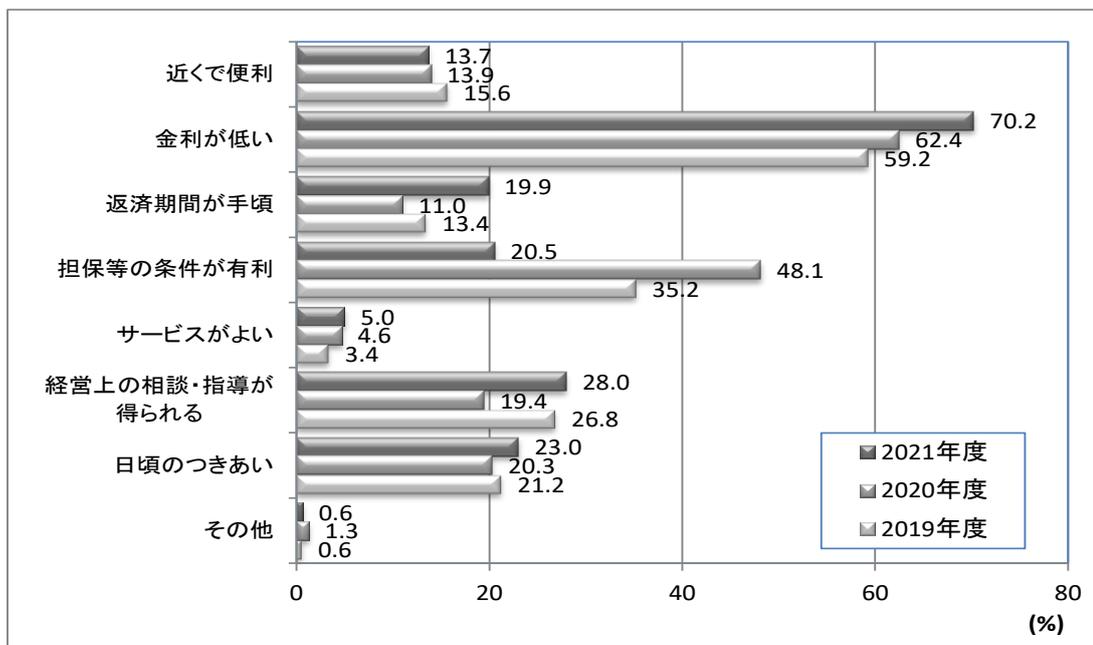
(3) 設備資金の場合の資金使途

設備資金の資金使途では「工場・店舗の補修・改修」22.4%、「車両等の購入」17.4%等本業への投資が多い。「新規事業に取り組むための設備資金」は前回比3.2ポイント増加し11.2%だった。



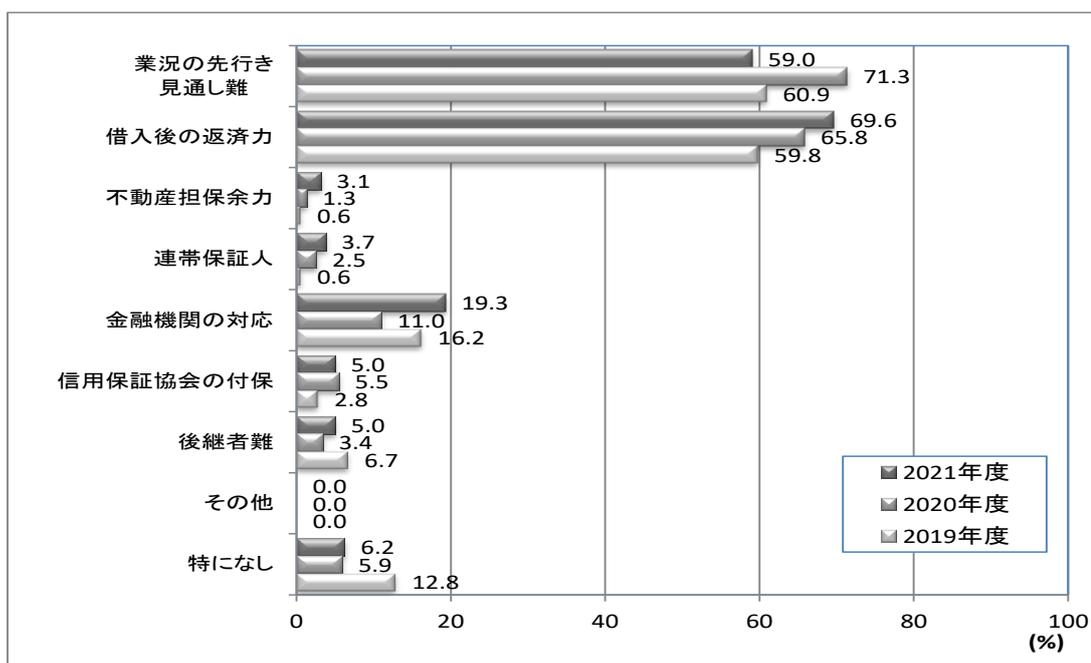
(4) 借入時に重視する条件（2つ以内で回答）

「金利が低い」が前回比 7.8 ポイント増加し 70.2%になり、より実利を重視する考えが強まっているが、一方で「経営上の相談・指導が得られる」が前回比 8.6 ポイント増加し 28.0%、「日頃のつきあい」も前回比 2.7 ポイント増加し 23.0%となり、間接的条件も相応に重視する傾向にある。



(5) 借入を考える場合の懸念事項（2つ以内で回答）

「借入後の返済力」が 69.6%、「業況の先行き見通し難」が 59.0%で 2 大懸念事項になっている。「金融機関の対応」は前回比 8.3 ポイント増加し 19.3%、「信用保証協会の付保」は前回比 0.5 ポイント減少し 5.0%だった。



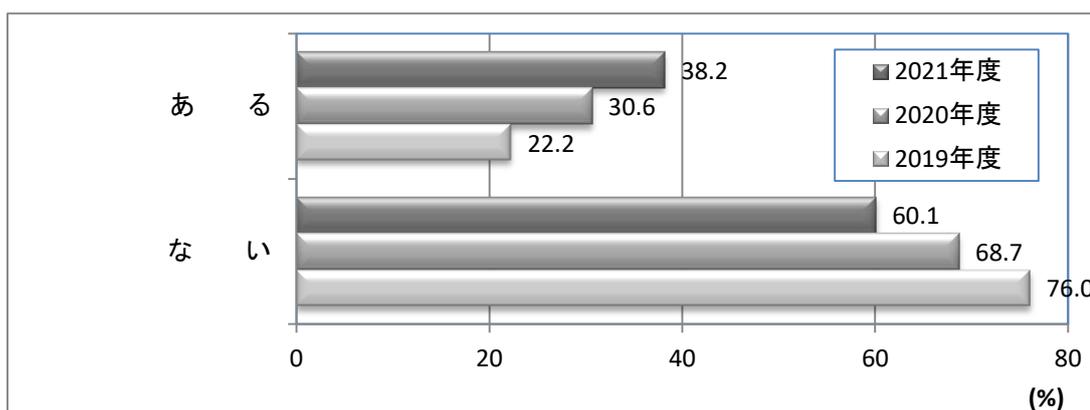
5. 制度融資等

(1) 国・県・市町村の制度融資の最近1年間の利用状況

「利用がある」は前回比7.6ポイント増加し38.2%になった。

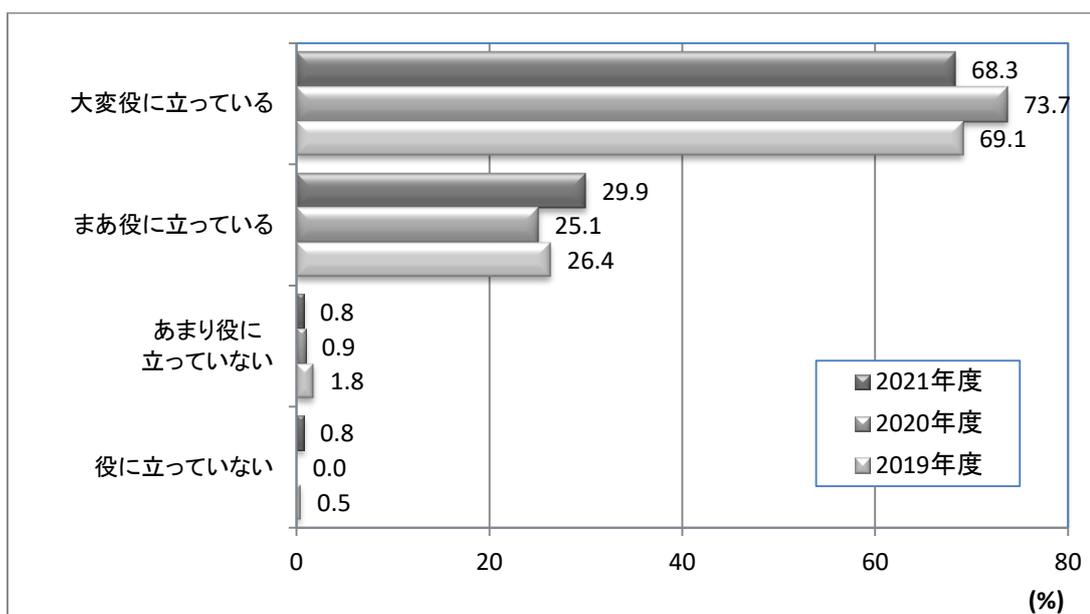
「利用がある」を業種別に見ると、「卸売業」が60.7%、「製造業」が50.0%、「飲食業・宿泊業」が45.5%と利用率が高い。

従業員規模別では、「21人以上」が66.0%、「16～20人」が57.1%、逆に「0人」では27.2%と大きいクラスが積極的に利用している。



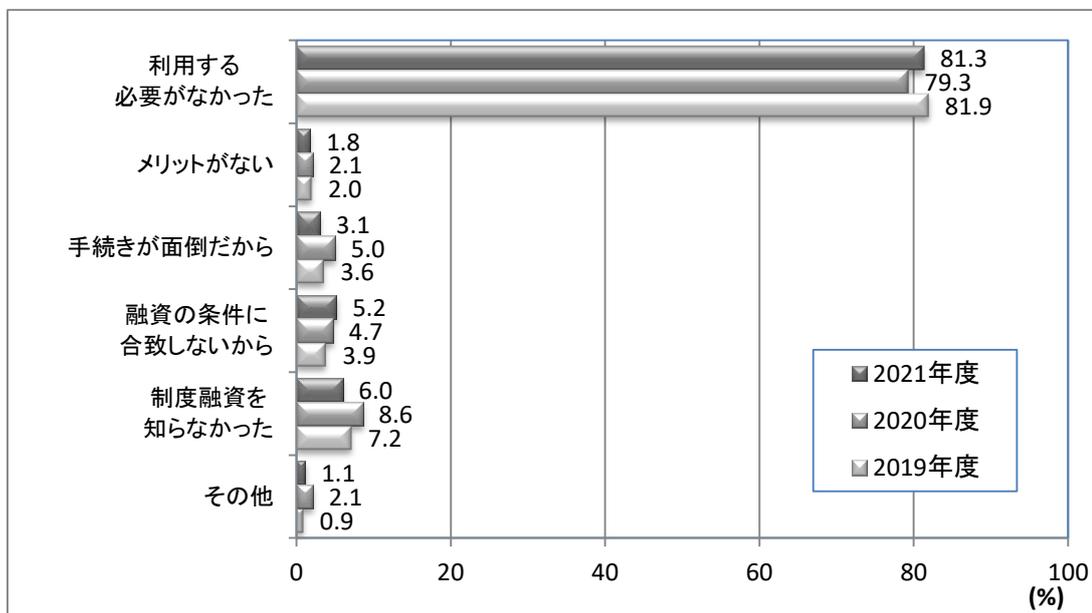
(2) 国・県・市町村の制度融資の経営（資金調達）上の有用性

経営の役に立っていると回答した先は、「大変役に立っている」「まあ役に立っている」を合わせて98.2%だった。



(3) 国・県・市町村の制度融資を利用しなかった理由

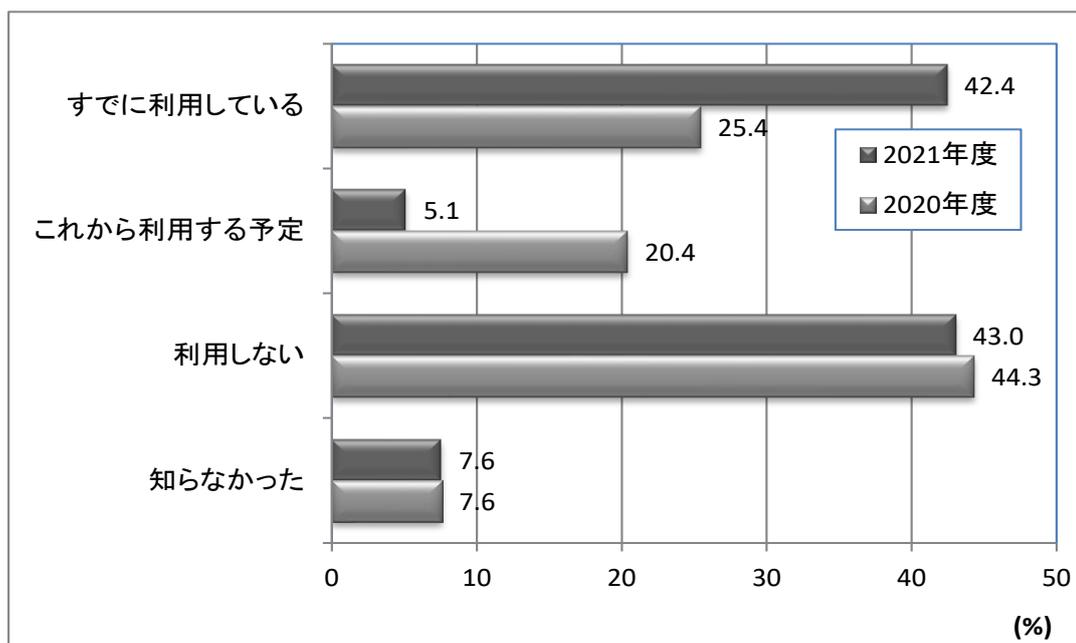
「利用する必要がなかった」の割合が 81.3%と圧倒的に多く、次いで「制度融資を知らなかった」6.0%、「融資条件が合致しない」が5.2%と続く。



(4) 日本政策金融公庫・県などの「新型コロナウイルス」対策用の制度融資について
ア. 利用状況

「すでに利用している」が 42.4%、「これから利用する予定」が 5.1%だった。

「すでに利用している」を業種別に見ると、「卸売業」が 57.1%、次に「製造業」が 54.1%、「飲食業・宿泊業」が 50.8%の順で高かった。

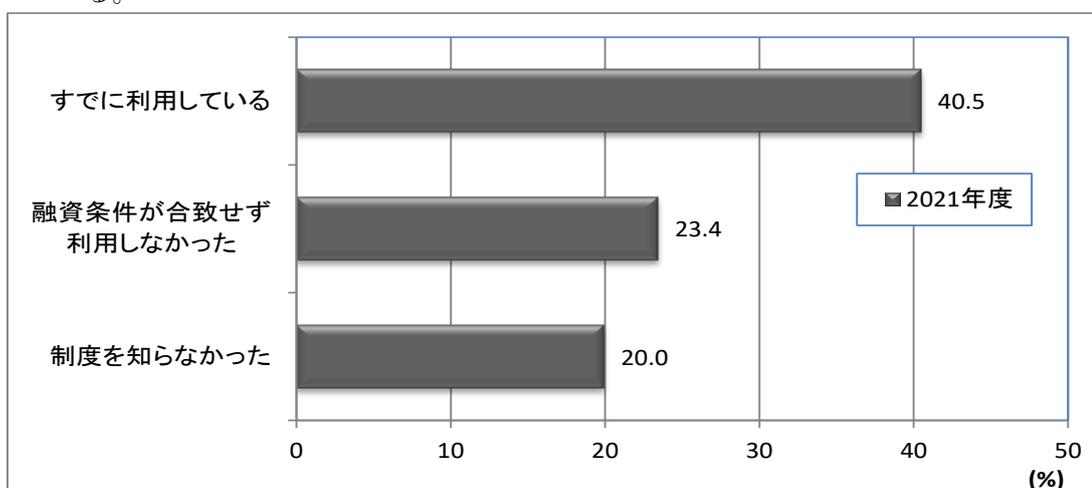


イ. 県のコロナ対応資金（ゼロゼロ融資）の利用状況

「すでに利用している」が40.5%、「条件が合わず利用しなかった」が23.4%、「制度を知らなかった」が20.0%だった。その他では「必要がないので利用しなかった」21件、「日本政策金融公庫を利用した」4件、「返済のことを考えて利用しなかった」3件等の回答があった。

「すでに利用している」を業種別に見ると、「卸売業」が57.1%、「運輸業」56.3%、「製造業」50.0%の順に多い。

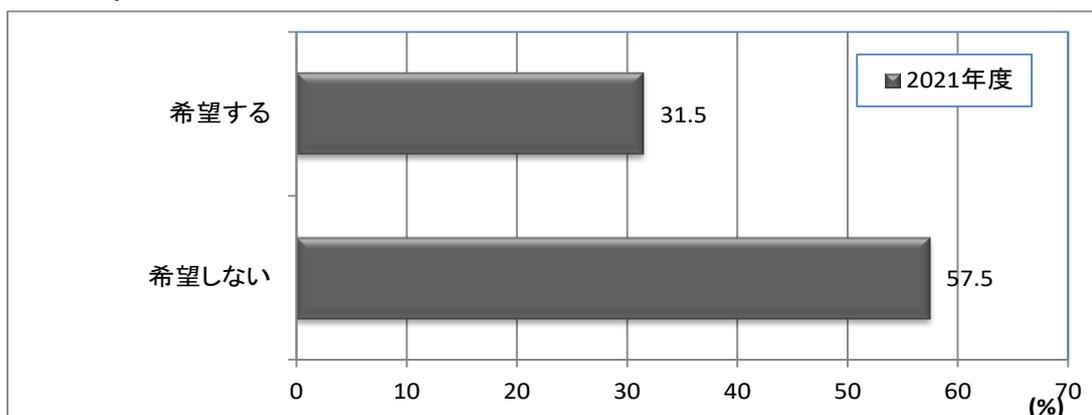
一方、従業員規模別では「21人以上」が72.0%、「16～20人」が67.9%に対し、「0人」が24.2%、「1人」が31.6%と大きいクラスで積極的に利用している。



ウ. 県のコロナ対応資金（ゼロゼロ融資）が再開された場合の利用希望

「利用する」が31.5%、「利用しない」が57.5%だった。その他では「その時の状況で考える」が16件、「分からない」が4件等の回答があった。

従業員規模別では「利用する」が「21人以上」で52.0%、「16～20人」で50.0%と過半を占めるのに対し、「11～15人」以下では「利用しない」が過半を占め、特に「0人」が67.6%、「1人」が57.2%と小さいクラスほど利用の希望が少ない。



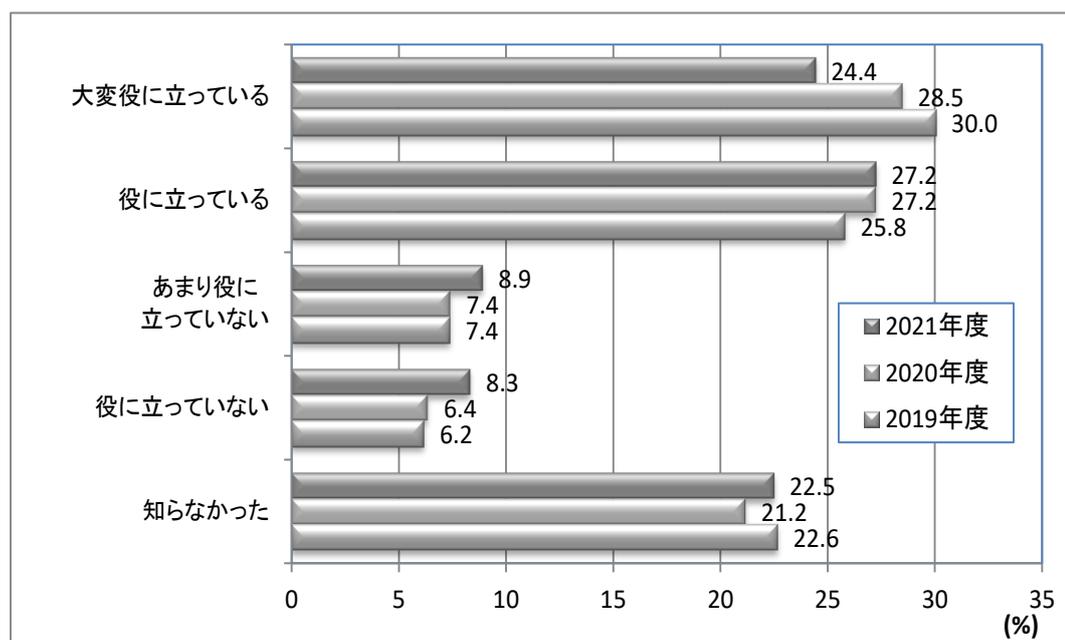
(5) 国（政府系金融機関）・県・市町村の制度融資に対する意見

—— 全部で26件の意見が寄せられた

- ・無利子期間の延長…4件
- ・金利を安くしてほしい・・・2件
- ・返済期間の長期化・・・4件
- ・利用枠を広げてしてほしい
- ・審査が厳しい
- ・低金利で融資を受けるメリットは大きいですが、制度が複雑で融資を受けるまでのハードルが高い
- ・周知が足りない
- ・新型コロナで売上が減少した時に融資をしてもらったが、担当の人がコロナ終息を勝手に半年ぐらいとして融資額を決めたのはおかしい
- ・永久劣後ローンを作してほしい
- ・苦しい会社は助けてくれない
- ・3年後に金利の支払が始まるが、その時点で今の状況が好転しているか不安
- ・コロナ対応融資はとても良い制度融資だと思う
- ・その他7件

(6) マル経融資（日本政策金融公庫の公的融資制度）の経営上の有用性

「大変役に立っている」「役に立っている」の合計が51.6%と前回比4.1ポイント減少。一方で「知らなかった」も1.3ポイント増加し、22.5%と依然として高く、一層の周知が望まれる。

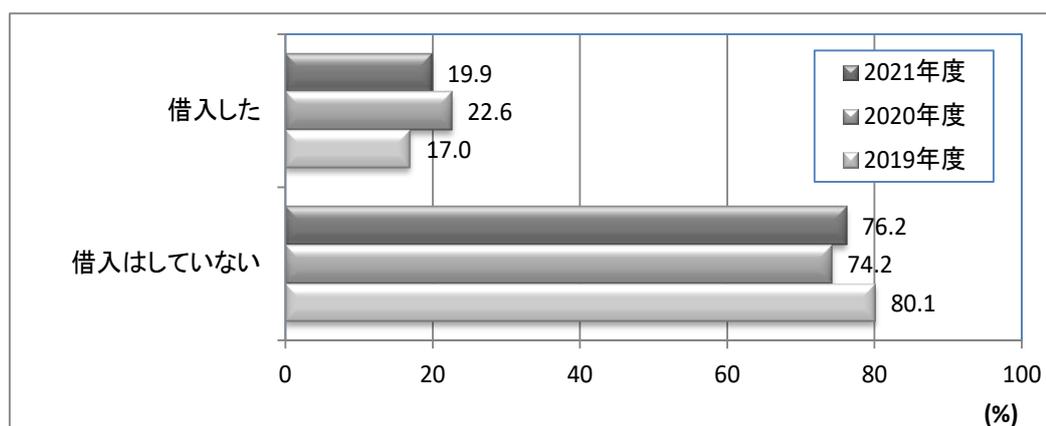


(7) 信用保証協会について

ア. 最近1年間の信用保証協会保証付き借入の利用について

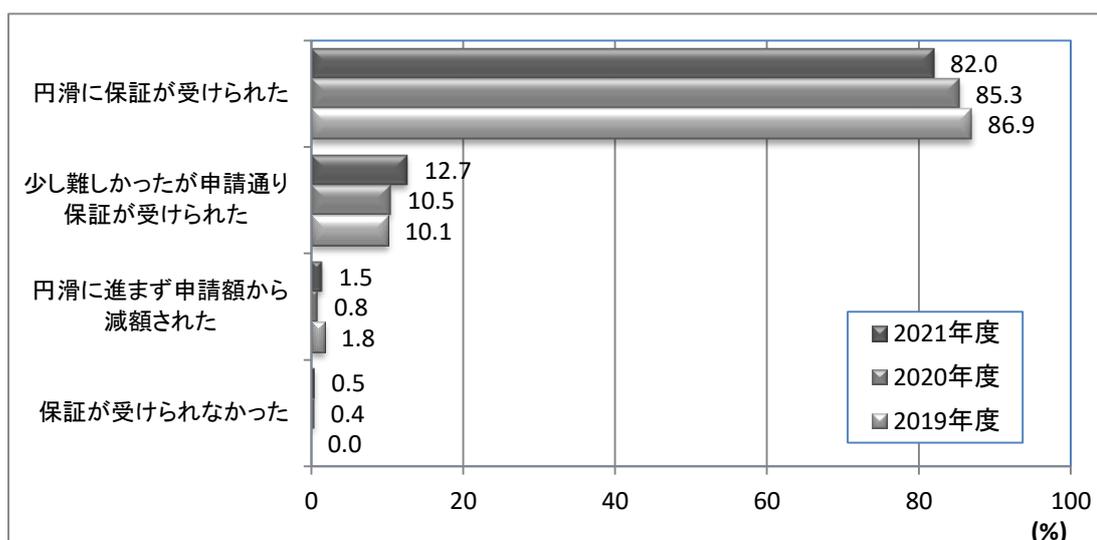
最近1年間に保証付きで借入をした先は、前回比2.7ポイント減少し19.9%だった。

従業員規模別に見ると「0人」が11.3%、「1人」が15.1%に対し、「16～20人」が42.9%、「21人以上」が42.0%と規模の大きいクラスでの利用割合が高く、(1) で見た「制度融資の利用状況」と一致している。



イ. 円滑な保証手続き

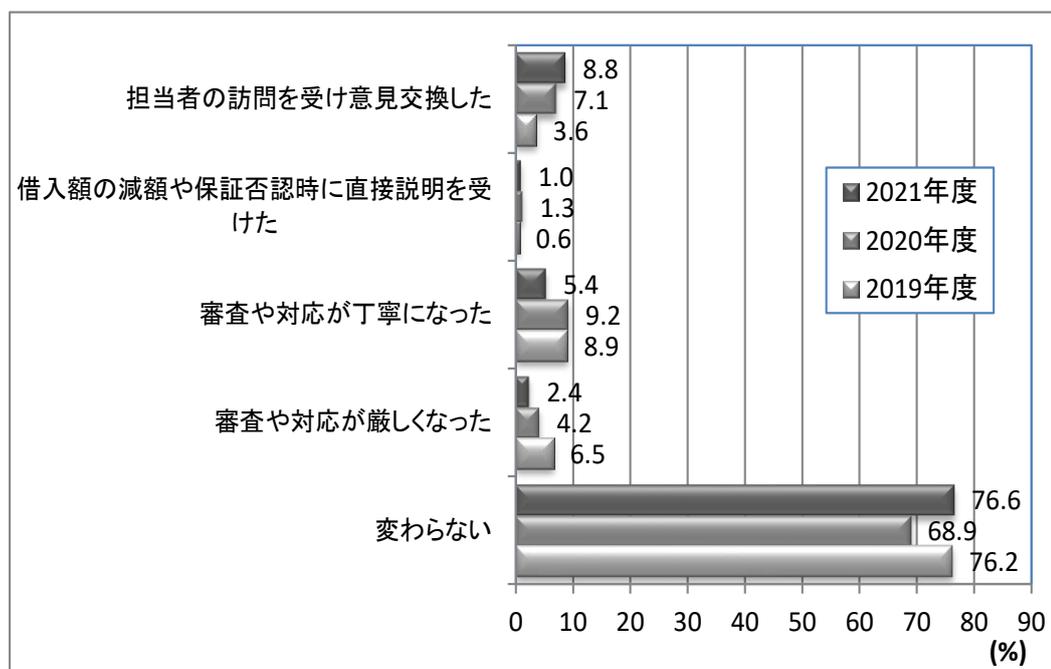
「円滑に保証が受けられた」82.0%と「少し難しかったが受けられた」12.7%の合計94.7%が保証応諾となった。



ウ. 信用保証協会の対応

「変わらない」が前回比 7.7 ポイント増加し 76.6%。

「訪問を受け意見交換した」「直接説明を受けた」「対応が丁寧」の評価意見合計は、前回比 2.4 ポイント減少し 15.2%、「厳しくなった」は前回比 1.8 ポイント減少し 2.4%だった。



(8) 信用保証協会に対する意見

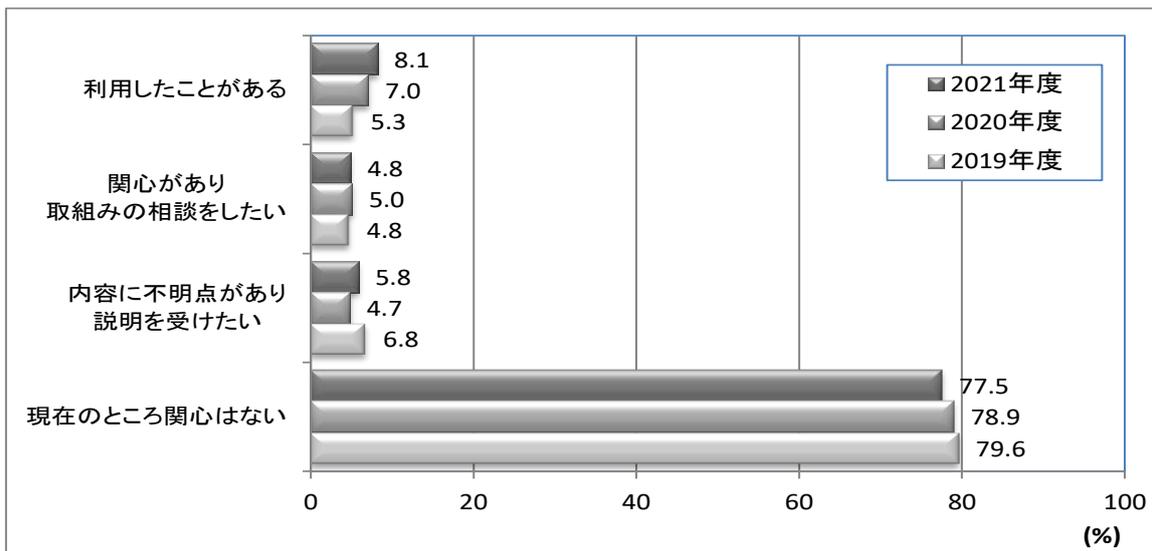
—— 全部で 15 件の意見が寄せられた

- ・保証料が高い・・・2件
- ・融資（保証）条件の緩和・・・2件
- ・対応を速く
- ・審査内容の開示
- ・資金繰りが上手く行かず、どうにもならない時に却下されるのはとても辛い
- ・しっかり調査してほしい
- ・時代にマッチしていない
- ・民間金融機関を補完する意味において良いと思う
- ・親切です
- ・その他 4 件

6. 最近の諸制度について

(1) 「中小企業・小規模事業者ビジネス創造支援事業」の専門家派遣について

「利用したことがある」は前回比 1.1 ポイント増加し 8.1%になった。「関心があり相談したい」「内容の説明を受けたい」の合計は、前回比 0.9 ポイント増加したが 10.6%と依然として低く、新しい先への周知に努める必要がある。

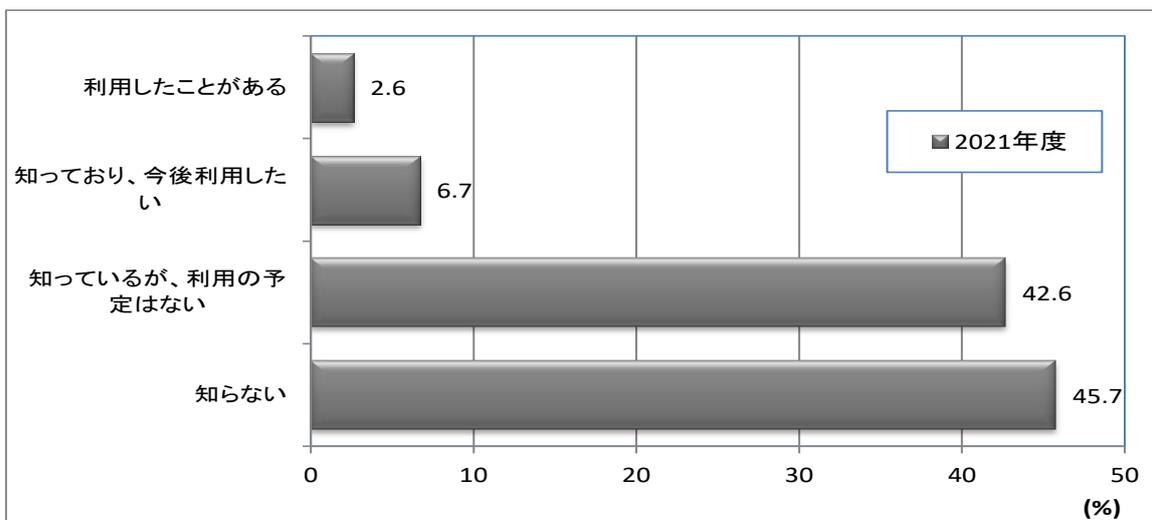


(2) 事業承継について

ア. 「事業引継ぎ支援センター」の認知度

「知っている」が前回比 22.2 ポイント増加し、51.9%と大きく改善した。

一方で「利用したことがある」は 2.6%、「知っており、今後利用したい」が 6.7%と利用に関してはまだ低い水準にあり、利用促進に向けて今まで以上に努力が必要。

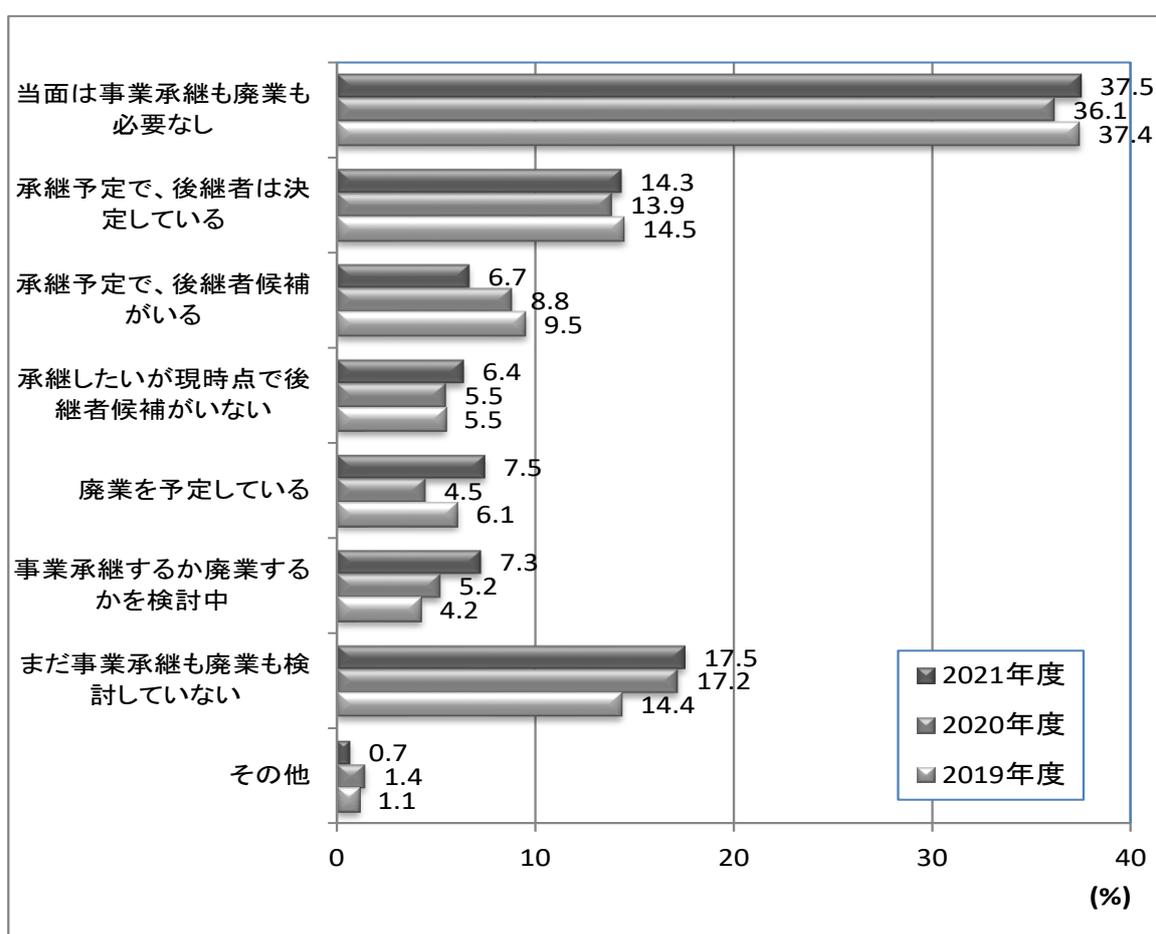


イ. 事業承継（後継者対策）

「事業承継も廃業も必要なし」と「事業承継も廃業も検討していない」の合計は前回比 1.7 ポイント増加し 55.0%。

残る半数近くが事業承継や廃業を検討中で、うち「後継者決定」「後継者候補がいる」の合計は前回比 1.7 ポイント減少し 21.0%になった。「後継者候補がない」は 6.4%、「廃業予定」「事業承継か廃業か検討中」の合計は前回比 5.1 ポイント増加し 14.8%となった。

それぞれの問題解決のために、「事業引継ぎ支援センター」の積極的な利用が望まれる。

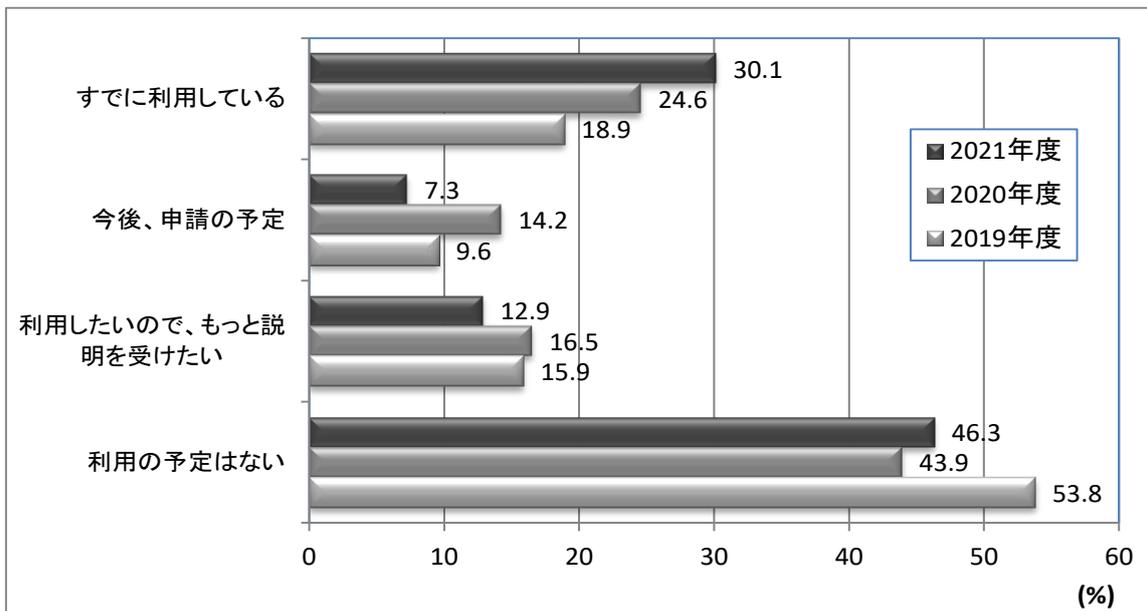


(3) 「ものづくり補助金」や「小規模事業者持続化補助金」などの利用状況

「すでに利用している」が 30.1%と前回比 5.5 ポイント増加し、着実に利用が進んでいる。

業種別に見ると「製造業」が 48.8%、次いで「サービス業」34.2%、「飲食業・宿泊業」34.1%の利用度が高い。

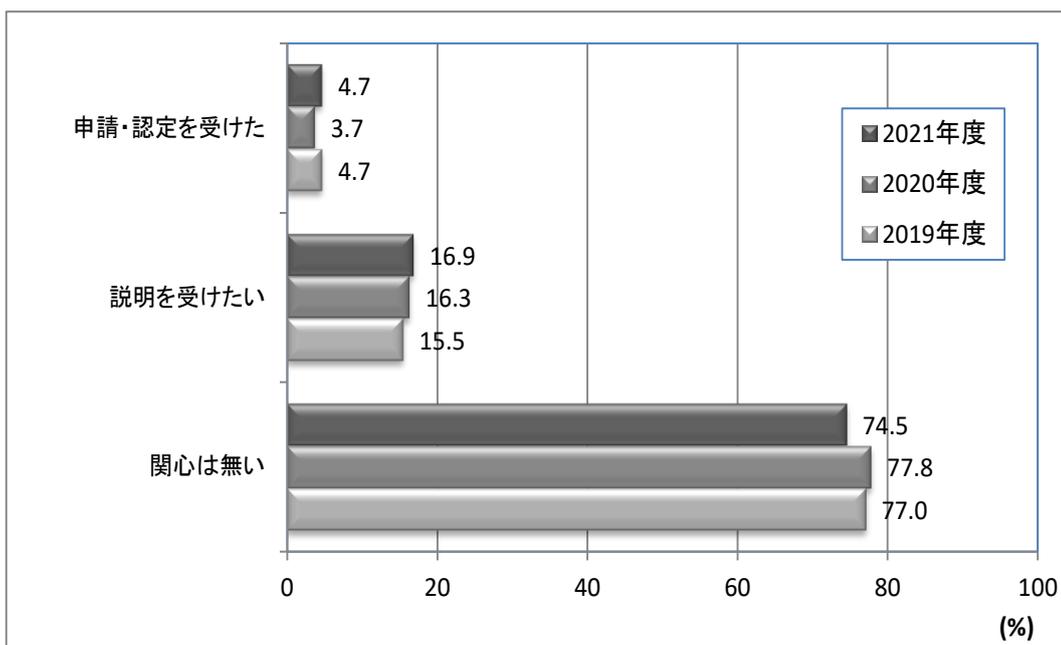
「利用したいので、もっと説明を受けたい」は 12.9%だった。



(4) 「経営力向上計画」認定制度について

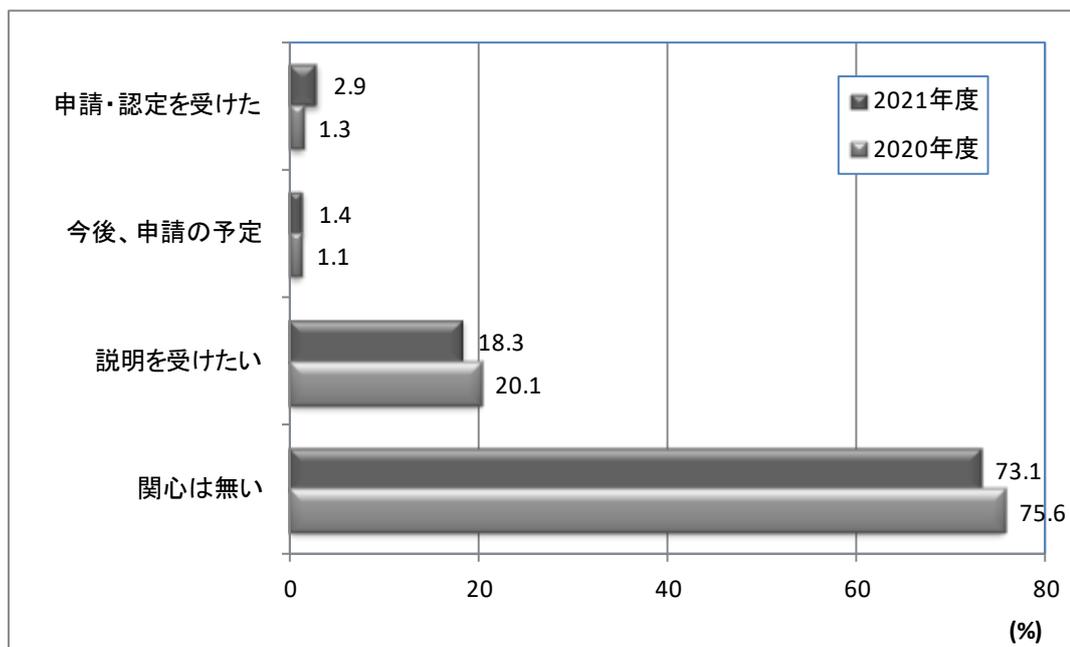
「申請・認定を受けた」は、前回比 1.0 ポイント増加したものの 4.7%と低い。「説明を受けたい」も 0.6 ポイント増加し 16.9%ではあるが、まだ関心が薄いと見える。

業種別に見ると、「申請・認定を受けた」は「製造業」が 9.4%で一番高い。「関心があり、説明を受けたい」は「卸売業」が 25.0%、「サービス業」が 19.6%、「運輸業」が 18.8%の順に高かった。



(5) 「事業継続力強化計画」認定制度について

2年前に施行された制度だが、「申請・認定を受けた」は前回比1.6ポイント増加し2.9%、「今後、申請の予定」が前回比0.3ポイント増加し1.4%と利用度は低い。「説明を受けたい」も1.8ポイント減少し18.3%となっており、最近の大規模自然災害の増加を考えると、本制度の利用促進に向けて更に努力が必要と思われる。



(6) 商工会に期待する金融円滑化支援策等について

—— 全部で26件の意見が寄せられた

- ・新しい情報があったら今後も教えてほしい・・・4件
- ・補助金、助成金申請のサポートをしてほしい・・・2件
- ・融資に関して指導、支援をしてほしい・・・3件
- ・持続化給付金の再支給を政府に働きかけてほしい・・・3件
- ・個人事業主の事業展開の話など関心を持って聞いてほしい
- ・補助金を申請したが却下された その理由が分からず少し不信感がある
- ・近くにあるので気軽に相談できて安心
- ・お陰様で個人事業でも一人で悩むことなく頑張ることができる
- ・何度かマル経を利用しているが、その都度迅速に対応していただいた 引き続き事業者寄り添って欲しい
- ・その他・・・9件

以上